

生徒が積極的に取り組む言語活動のあり方に関する研究  
—学習意欲を高める英語科の授業をめざして—

2007. 3

大阪市教育センター

## 生徒が積極的に取り組む言語活動のあり方に関する研究

### —学習意欲を高める英語科の授業をめざして—

中学校外国語(英語)科においては、言語活動を通して英語を用いた実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことが求められている。

実践的コミュニケーション能力へとつながる基礎・基本には、英語の音声や文字、文法や語彙といった言語材料に関する知識を身につけることに加え、英語でコミュニケーションを図ることへの関心や意欲を高め、態度を養うことが含まれる。生徒がこのような知識・理解と関心・意欲・態度を備えた実践的コミュニケーション能力の基礎を身につけるためには、授業で言語活動を効果的に行うことが不可欠である。

そこで、本研究では、中学校外国語(英語)科において、言語活動に意欲的に取り組み続けることが、基礎・基本を習得しようとする学習意欲の向上につながるのではないかという仮説のもと、生徒が積極的に取り組む言語活動のあり方を追究した。

【キーワード】 実践的コミュニケーション能力      言語活動      学習意欲  
関心・意欲・態度      基礎・基本

## 目 次

はじめに	1
I 研究のねらいと方法	1
II 我が国における英語教育の現状と課題——言語活動に視点をあてて——	2
1 文部科学省がめざす英語教育の目標	2
2 中学校外国語(英語)科の内容	3
3 中学校外国語(英語)科における指導の現状と課題	4
III 生徒が積極的に取り組む言語活動	4
1 英語学習への意欲を高める要因	4
2 生徒が積極的に取り組む言語活動にするための工夫	5
(1) 取り組む気になる工夫 —「よし、やってみよう！」	5
(2) 達成が予測できる工夫 —「これ、できそう！」	6
(3) 学習成果の実感を与える工夫 —「わかる！できる！」	6
3 生徒が積極的に取り組む言語活動のあり方	7
IV 言語活動で授業が変わる——生徒の変容を中心に——	7
1 実践事例 1	7
(1) 言語活動の設定	7
(2) 評価に関する工夫	9
(3) 実践の結果	10
(4) 実践の考察と仮説の検証	13
2 実践事例 2	14
(1) 言語活動の設定	14
(2) 実践の結果	16
(3) 実践の考察と仮説の検証	19
V 研究のまとめと今後の課題	20
おわりに	21
資料	23
資料 1 実践事例 1 において取り組んだ言語活動の指導案およびワークシート等の例	
資料 2 実践事例 2 において取り組んだ言語活動の指導案およびワークシート等の例	

## はじめに

人が言語を習得する目標は、その言語を用いてコミュニケーションを行うことである。ここでいうコミュニケーションとは、伝える必要のあるメッセージを発信したり、知る必要のあるメッセージを受信したりすることであり、その内容は、個人や集団の感情や価値観、ものごとに対する考え方や意見といった主観的なものから事実や情報といった客観的なものまであらゆるものが対象となる。

また、コミュニケーションは手段や形式も様々である。例えば、会話やスピーチは「話すこと」によって行われる。手段は同じ「話すこと」でも、歌や映画、ドラマという形式で歌詞や台詞に思いを込めて伝えるメッセージもある。TV コマーシャルもまた「話すこと」による情報の伝達である。さらに、本や雑誌、手紙やインターネットのウェブページ等には「書くこと」によって表現された人々の思いや情報が詰まっている。こうして発信されたメッセージは必ず誰かに届くこととなる。「話すこと」によって発信されたメッセージは「聞くこと」によって、あるいは話された内容について書かれたものを「読むこと」によって誰かに伝わるのである。「書くこと」によって発信されたメッセージもまた同じである。メッセージが伝わるのに要する時間は様々であるが、メッセージを受け取ってほしい相手は必ず存在する。一人であるかもしれないし、不特定多数であるかもしれない。つまり、コミュニケーションとは、決して人と人とが向かい合い、聞いたり話したりすることだけによって行われるものではないのである。

従って、習得したいコミュニケーション能力とは、言語を用いたあらゆる活動を想定したものでなければならない。英語を用いたコミュニ

ケーション能力の育成をめざす中学校外国語(英語)科の指導においても同様である。生徒一人一人がコミュニケーションを図る手段として英語を身につけることができる効果的な指導を工夫していくことが大切となる。本研究は、このような課題意識のもと、中学校外国語(英語)科の指導のあり方を追究するものである。

## I 研究のねらいと方法

学習指導要領では、「実践的コミュニケーション能力」を「単に外国語の文法規則や語彙などについての知識をもっているというだけではなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力」としている<sup>1)</sup>。

では、実践的コミュニケーション能力につながる基礎・基本とは何であろうか。我が国におけるこれまでの英語教育は、外国語の音声や文字、文法や語彙といった言語材料に関する知識・理解を基礎・基本とし、それらを学び、深める指導を重ねてきた。しかし、実践的コミュニケーション能力を育成するためには、コミュニケーションを図ることへの関心・意欲を高め、コミュニケーションを図ろうとする積極的な態度を養うことをこれまでの基礎・基本に加えて指導していく必要がある。

コミュニケーションを図ることへの関心・意欲を高め、態度を育てるためには、学習指導要領に示されているように、授業において言語活動を効果的に行うことが不可欠である。学習指導要領では、「英語を用いてコミュニケーションを図る活動」だけでなく、言語材料について「練習したり理解したりする活動」も言語活動としている。つまり、言語活動を行うことによって、生徒は、コミュニケーションを図ることへの関心や意欲を高め、英語を用いて積極的にコミュ

ニケーションを図ろうとする態度を養うことができると同時に、英語の音声や文字、文法や語彙といった言語材料に関する知識を身につけることができるのである。すなわち、授業に言語活動を効果的に位置づけることによって、生徒は実践的コミュニケーション能力につながる基礎・基本を習得できるといえる。

従って、指導者には、生徒が積極的に取り組もうとする言語活動を設定し、授業に効果的に位置づけることが求められる。まず、言語活動に積極的に取り組もうとする生徒の意欲を高めること、そして、生徒が言語活動に取り組み続けることで、基礎・基本を習得しようとする学習意欲の向上を図る指導が大切となる。

そこで、本研究では、指導者がどのような点を考慮し工夫すれば、生徒が積極的に取り組む言語活動となるか、その内容・方法等に関して追究することとした。そして、言語活動に積極的に取り組み続けることが、生徒の学習意欲の向上につながることを明らかにしたい。

研究の方法は次の通りである。

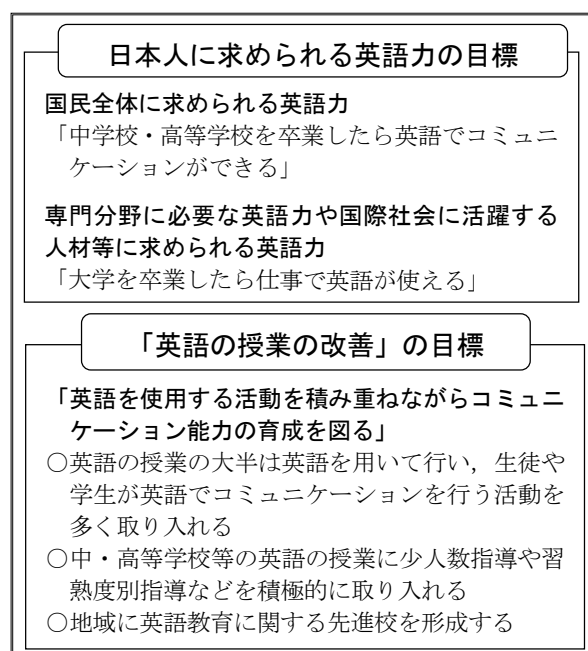
- (1) 生徒が積極的に取り組もうとする言語活動にするための考え方や方法を追究する（文献研究、先行事例の収集・整理）
- (2) 実践校の実態を把握する（質問紙調査、授業参観、聞き取り）
- (3) (2)で把握した実態に応じて学習意欲を高める言語活動を設定する
- (4) 授業実践を行い、生徒の学習に対する意識や学び方に関する変容を捉え、実践結果を考察する
- (5) 研究仮説の有効性を検証する

## Ⅱ 我が国における英語教育の現状と課題 ——言語活動に視点をあてて——

### 1. 文部科学省がめざす英語教育の目標

平成14年7月、文部科学省は、『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想<sup>2)</sup>を策定し、平成15年3月には、そのアクションプランとして『英語が使える日本人』の育成のための行動計画（以後、「行動計画」）<sup>3)</sup>をとりまとめている。当時の文部科学大臣は「(これまでに)基礎的・実践的コミュニケーション能力の育成を一層重視した学習指導要領の改訂など様々な施策を講じて」きたが、「改善の実をあげるためには、カリキュラムの改善だけでなく、指導方法の改善、教員の指導力の向上、入学者選抜の改善など、様々な取組を同時に行って」いく必要があると行動計画提言の意図を述べている<sup>4)</sup>。

「行動計画」においては、図Ⅱ-1に示すとおり日本人に求められる英語力の目標を明確にし、その達成のために「英語の授業の改善」の目標が示されている。



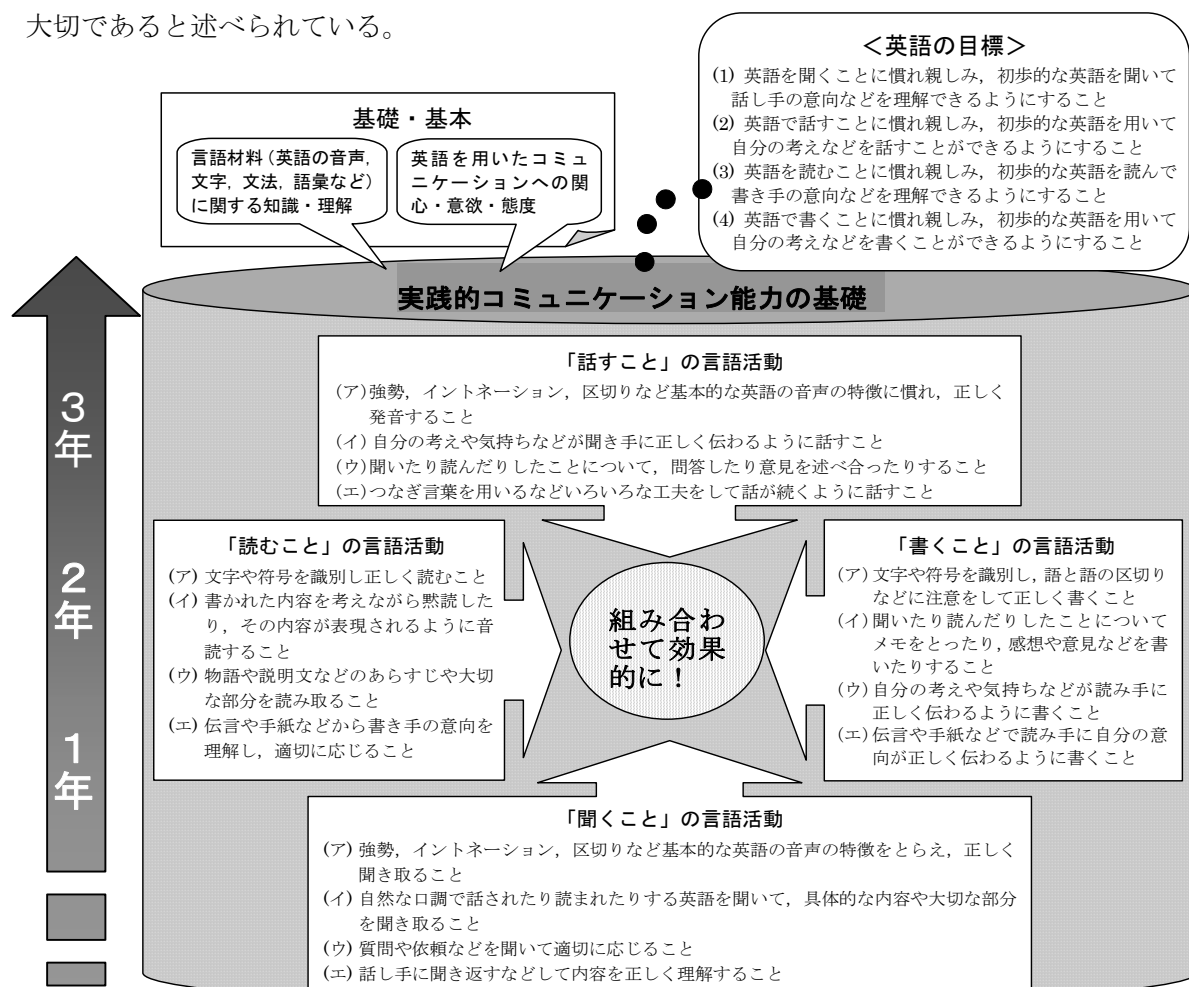
図Ⅱ-1 「日本人に求められる英語力の目標」および「英語の授業改善の目標」

「英語の授業の改善」では、従来の指導方法を見直すべく、「英語の授業においては、文法訳読中心の指導や教員の一方的な授業ではなく、英語をコミュニケーションの手段として使用する活動を積み重ね、これを通して、語彙や文法の習熟を図り、『聞く』『話す』『読む』『書く』のコミュニケーション能力の育成を図っていく指導の工夫が必要である。」と述べられている。そして、指導を効果的に行うためには、「生徒や学生が英語でコミュニケーションを行う場面を多く設定すること」が重要であり、その際、「学習者が自分を表現し、相手を理解することができた成就感や学ぶ楽しさを味わうことができ、さらに、英語ができることの意義、必要性やそのことによって広がる世界や可能性に興味や関心を持つことができるよう」に工夫することが大切であると述べられている。

## 2. 中学校外国語(英語)科の内容

中学校外国語(英語)科の学習指導要領では、「単に英語を表面的、機械的に理解したり表現したりする能力にとどまらず」、「実際に言葉を使用してコミュニケーションを図るということを念頭に」置き、英語の目標が4つ示されている<sup>5)</sup>。

そのうえで、目標を達成するために「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域において、それぞれ(ア)～(エ)の言語活動を示し、これらを指導する内容としている。各学校においては、「3年間で必要な内容を繰り返して指導する」こと、「一つの指導事項を取り上げて行うばかりでなく、他の領域の指導事項と組み合わせることにより指導の効果を上げる」ことができるよう、「学年ごとの目標を適切に定め、



図Ⅱ-2 中学校外国語(英語)科における3年間を見通した指導の概念図

3 学年間を通して英語の目標の実現を図るようになる」ことが、指導計画作成上の配慮事項としてあげられている<sup>6)</sup>。このような3年間を見通した指導の考え方を図Ⅱ-2(p.3)に示す。

### 3. 中学校外国語(英語)科における 指導の現状と課題

国立教育政策研究所は、「行動計画」において「英語の授業の改善」のために示した目標の達成状況を把握するために、英語教育改善実施状況調査を平成17年11月に実施している。その結果、「英語の授業の大半は英語を用いる」という目標に対し、英語の使用が「大半」であると回答した学校は、わずか4%未満にすぎなかった<sup>7)</sup>。

また、平成15年度教育課程実施状況調査の質問紙調査の結果においては、学年が進むにつれて「英語の勉強が好き」と答える生徒が減少し、授業が理解できている生徒も減少する傾向が明らかになっている(表1)<sup>8)</sup>。

授業中、英語に慣れ親しむことが少なく、学習の達成感を味わうことがない状況から、生徒の興味・関心が薄れていく現状がわかる。

表1 質問紙調査の結果(%)

質問		1年	2年	3年
英語の勉強は好きですか	「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計(%)	60.5	51.0	48.7
英語の授業がどの程度わかりますか	「よくわかる」「だいたいわかる」の合計(%)	54.8	47.3	45.1

### Ⅲ 生徒が積極的に取り組む言語活動

これまで述べてきた英語教育の目標と内容、現状と課題から、生徒が積極的に取り組む言語活動を設定し、授業に取り入れることの重要性が明確になった。そこで、本章では、生徒が積

極的に取り組む言語活動を設定するための考え方や具体的な方法を探ることとする。

#### 1. 英語学習への意欲を高める要因

第二言語を習得するうえで、何が学習の動機付けとなり、意欲を高める要因となるかについては、学習者を取り巻く環境や教育システムを考慮する必要がある<sup>9)</sup>。そこで、教育心理学の観点から教室という学習環境において、人が外国語を学ぼうとする場面で動機付けとなる点を参考に、中学生が学習意欲を高める要因を考察した<sup>10)</sup>。

我が国における外国語習得の環境や教育システムから、中学生のおかれている状況や学習環境を考えると、中学生が英語学習を行うのは、外発的動機付け<sup>11)</sup>による場合が多いと考えられる。試験や進学、良い収入を得られる職業といったものから生じる目標やエリート志向、あるいは、システム上、教科として位置づけられていることから生じる動機付けである。

このような動機付けをさらに強いものとするためには、学習行動そのもののおもしろさや学習内容の有用性といった内発的動機付け<sup>12)</sup>を与えることが有効であると考えられる。そのためにも、教室では英語を用いたコミュニケーションの機会を多く経験することによって、メッセージを伝えたり受け取ったりする喜びや充足感を味わうことが大切となる。生徒が、コミュニケーションを行う学習活動を通して、学習そのものに対しても満足感や達成感を実感し、より多くの人と英語を通して関わることによって広がる世界や英語という言語の有用性を理解できるようにしたい。つまり、コミュニケーションを行う学習活動への興味・関心を高め、様々な学習活動を通してその成果を一つ一つ実感す

ることが学習への動機付けとなり、学習意欲の向上につながると考えられるのである。

では、言語活動を通してできる工夫は何だろうか。次節で探ることとする。

## 2. 生徒が積極的に取り組む言語活動にするための工夫

本節では、中学校外国語(英語)科の実態をふまえ、検定教科書の題材、話題、言語活動を中心に授業を展開することを念頭に置き、生徒が積極的に取り組む言語活動にするための工夫について述べる。

### (1) 取り組む気になる工夫

—「よし、やってみよう！」

#### ① 「知りたい」「伝えたい」状況を作る

生徒が「知りたい」「伝えたい」と思うことは、コミュニケーションの手段として英語を指導するうえで、最も大切なことである。そのためには、一方的に指導者が説明することを避け、発問や提示の仕方を工夫することで、生徒の発言を引き出す必要がある。例えば、教科書本文の内容を聞いて理解する言語活動では、内容理解の背景となる知識を活性化させたり、聞き取るポイントを与えたりするなどの工夫によって、生徒に「聞きたい」「聞いてみよう」という思いをもたせることができる。生徒が、知る必要があるから聞こう/読もうとする、伝える必要があるから話そう/書こうとするという視点から、言語活動を設定することが大切である。

#### ② 肯定的な第一印象を与える

提示された言語活動が「おもしろそう」「楽しそう」といった好印象を与えるものであれば、生徒は取り組もうとする意欲を高めるはずである。例えば、話題や題材を通して与えることもできるし、ゲーム的要素やクイズ形式を取り入

れることによっても可能となる。それによって、生徒が自由に発言できる雰囲気を作り出すものとなるよう心がける必要がある。そして、「楽しい」だけではなく、学習内容を定着、活用できるものであることが大切である。

「いつもと違うぞ」という印象を与えることも有効である。何らかの違いを工夫し、常に新しい言語活動とすることによって、生徒は取り組む意欲を高めることができる。また、様々な言語活動を経験することは、自信をもって取り組むことができる活動や得意な領域を発見したり、自ら学ぶための様々な学習方略<sup>12)</sup>を身につけたりすることにもつながる。具体的には、教材を手作りのものとしたり、実物を用いたりすること、行うコミュニケーションについて、パターンを変えたり(指導者⇄生徒、生徒⇄生徒、ペア、小グループ、必要な相手を探すなど)、場面設定を変えたり(場所や時間、役割の設定など)、手段を変えたり(聞く→読む、話す→書く)することなどが考えられる。

#### ③ 評価を意識させる

言語活動の評価の方法は、指導者による授業中の観察、ワークシートやノートの点検、評価テストなどいくつか考えられる。いずれの方法でも、言語活動に取り組む前にどのような評価を行うかを生徒に予告しておくことによって、生徒が言語活動に取り組もうとする意欲を高めることができるはずである。具体的には、言語活動と同じ内容の評価テストを行うことやクラスで発表することをあらかじめ知らせておいたり、書く活動によって完成したものを教室に掲示したりすることなどが考えられる。生徒が、がんばろうという意欲を起し言語活動に取り組み、学習成果をあげるものとなるよう工夫することが大切である。

## (2) 達成が予測できる工夫 —「これ、できそう！」

### ① 達成目標を明確にする

目標が明確であれば、生徒の取り組む意欲は向上するであろう。そのためにも言語活動は、達成目標に対してすべての生徒がおおむね満足できる状況となることをめざして設定され、各授業や各単元の到達目標にむけて位置づけられるべきである。その際、指導者は、生徒の実態に応じ、スモールステップで刻まれた適切な目標設定をすることが重要となる。そうして授業に位置づけられた言語活動は、生徒にとって目標を理解しやすいものとなる。そのうえで、より確実に理解させるためには、一つ一つの言語活動や各授業の目標を生徒にとってわかりやすい言葉で知らせる工夫をすることが考えられる。具体的には、授業開始時や言語活動に取り組む前に口頭で伝える、紙に書いておいて黒板に掲示する、学習の流れがわかるような学習計画表に達成目標を示し生徒に配布するなど様々な方法が考えられる。

### ② 目標達成のための手立てを準備する

示された目標にむかって生徒が努力するとき、目標の達成にむけた支援を行うことが大切である。すなわち、設定した言語活動に取り組む生徒が直面するであろう問題や課題を想定したうえで、目標に到達するための手立てを準備しておくのである。その際には、クラス全体として必要な手立てと生徒一人一人に応じた手立てを考えておく必要がある。具体的には、関連する語彙などを示したヒントカードを作成しておき必要な生徒に配布する、ワークシートを数種類作成しておき生徒自身が選んで取り組むことができるようにするなど様々な工夫が考えられる。そのためにも日々変化する生徒の実態を確実に把握しておくことが大切である。

## (3) 学習成果の実感を与える工夫 —「わかる！できる！」

### ① 学習内容を活用する機会を与える

言語活動を通して学習した内容が、別の言語活動や授業以外の場面において活用することができれば、生徒は学習の成果を実感し、さらに学習に励むようになる。このことをねらいとして発展性のある連続した言語活動を計画的に授業に位置づけることが大切である。例えば、新出文法を導入し、その理解と定着を図る言語活動を段階的に行うこと、教科書本文など英語で書かれた文章の概要を理解する活動のあと、理解した内容から新出文法や語彙の意味・用法を導き出す学習活動へ展開すること、さらには、文法や語彙の知識を活用して正確に内容を理解したあと、描かれている状況や気持ちをふまえて音読活動を行うことなど様々に考えられる。

### ② 自分の学習状況を振り返る機会を与える

学習状況を振り返ることは学習成果を実感するうえで大切である。日々の授業ごとに自己評価を行い、目標を一つ一つ達成していることを確認し、達成感を積み上げていくことや一定期間の学習の過程と成果を振り返り、「以前はできなかったができるようになった」という成就感を実感することなどが考えられる。単に成績があがった、得点が伸びたということを結果としてとらえさせるのではなく、「英語でこんなことが言えるようになった」、「英語を読んで理解することができた」というような具体的な項目を用意しておき、できるようになったことは自身の努力の成果であることを理解させたい。自分の学習状況と学習行動の関係を理解することができれば、自分にとって今後必要な学習行動は何なのか、自分に最適な学習方法はどのようなものなのかといった学習方略も考えられるように

なり、自主的、自律的な学習ができるようになると考えられる<sup>13)</sup>。

### 3 生徒が積極的に取り組む言語活動のあり方

生徒が積極的に取り組むことをめざし、これまでに述べた英語学習への意欲を高める要因をふまえた工夫を言語活動に加える際には、指導者が生徒の実態を的確に把握していることが大変重要となる。生徒一人一人の学習状況や学習に対する意欲や態度について正しい理解がなければ、いくら工夫を加えた指導を行っても最大の効果を得ることは難しいからである。

そして、実態を的確に把握するために重要となるのが、指導者として、明確な到達目標やめざす生徒像をもつことである。生徒に習得させたい知識・理解と育成したい能力を明確にしておくことが、生徒の学習状況や関心・意欲の現状を把握するうえでの判断規準となり、指導が効果的に行われているか、どのような工夫や改善がさらに必要かを見極めることにつながるからである。

目標を設定する際には、一年後あるいは学期ごとなど長期的な視野に立ち、各単元・各授業の達成目標を設定することが大切となる。生徒が言語活動を通して新たな知識を獲得し、理解を深めると同時に技能を身につけていくことをふまえて言語活動を設定すること、そして、最終到達目標をめざして一步一步進んでいくことができるよう言語活動の連続性を意識して授業に位置づけることを日々繰り返すことが必要である。

生徒が積極的に取り組む言語活動をめざすうえで、こうした指導者の意識が欠かせないと考えられる。

## IV 言語活動で授業が変わる ——生徒の変容を中心に——

本章では、大阪市立の公立中学校において、生徒が積極的に言語活動に取り組むことを通してさらなる学習意欲の向上を図ることをめざし取り組んだ2つの実践を紹介する。それぞれの実践において、生徒が取り組む意欲を高めることができるよう実態に応じた言語活動を工夫し、その取り組み方や意識の変容をとらえたうえで、研究の仮説を検証することとする。

なお、実践事例1は中学校2年生を対象に、実践事例2は中学校1年生を対象にそれぞれおよそ2ヶ月にわたって取り組んだものである。

### 1. 実践事例1

#### (1) 言語活動の設定

生徒の実態に応じた工夫を行うため、生徒対象に質問紙調査を実施し、学習意欲を高める要因をとらえたうえで言語活動を設定した。調査の結果、肯定度の低かった項目は表2(p.8)に示すとおりであった。

そのうえで、授業参観や指導者からの聞き取りを通して、指導の内容・方法の実態を把握した。授業では、工夫された言語活動が実践されており、生徒の実態に応じたワークシートや学習プリント等が活用されていた。日頃の指導の成果もあり、英語を用いてコミュニケーションを行うことや学習内容に対する生徒の興味・関心は比較的高い状況であった。一方で、コミュニケーションのパターンは、指導者とクラス全体によるものが中心で、生徒一人一人が英語で話す機会はそれほど多くないこと、各授業の内容理解が不十分なままになっている生徒がいることが把握できた。

このような質問紙調査の結果と指導の実態を

表2 肯定度の低かった項目から考察した学習意欲を高めると考えられる要因

質問項目	肯定度 (%)	学習意欲を高める要因
将来、英語を使う仕事をしてみたい	43.5	
ALTに積極的に話しかけていくことができる	49.6	
学習した単語や表現を用いて英語で話すことができる	49.9	
学習した単語や表現を用いて短い文章を書くことができる	51.4	
英語の授業で学んだことはしっかりと身につけている	54.6	
英語で何か聞かれたとき、間違いをおそれず何か答えようとする	56.3	
授業中は大きな声で発音や音読の練習をしている	56.4	
英語を学習する目的や目標がある	57.0	
英語の授業は毎時間よく理解できる	57.3	
英語の学習に関して自分はよく努力していると思う	58.1	

考察し、学習意欲を高めると考えられる要因をとらえた。その結果、学習成果を実感させることによって、学習に対する自己効力感（課題を遂行するうえでの自身の能力に関する判断）<sup>14)</sup>や自信を高め、自己を肯定的にとらえさせることが有効ではないかと考えた(表2)。

そこで、目標を明確にし、その達成のための手立てを準備した言語活動をスモールステップで設定することを中心に、生徒が取り組む意欲を高めることができる様々な工夫を加えることとした。以下に、取り組んだおもな言語活動について工夫した点およびその意図を述べる。

### ① 英問英答を行う活動

生徒一人一人が「答えることができた」「理解することができた」という実感をもつことができる言語活動をめざし、工夫を加えた。指導者とクラス全体の生徒との問答は、単なるパターン・プラクティスに終始することなく、生徒に重要語彙や文法事項の意味や用法を気づかせるものとなるよう工夫した。また、生徒一人一人が英語を話す回数を増やすため、生徒どうしがコミュニケーションを行う活動を積極的に取り入れ、話題に事実を多くとりあげるようにした(資料1-①)。そして、同じ言語材料(語彙・文

法事項など)を次の言語活動においても繰り返し用いることによって、学習内容の定着を図り、生徒が学習の成果を実感できるよう工夫した。

### ② 概要を聞き取る活動

教科書本文の内容を聞き取ろうとする生徒の意欲を高めるため、工夫してワークシートを作成した。内容理解の手がかりとなるポイントや質問事項を示したり、関連する語彙やトピックについての情報を与えたりして、聞き取ることができた実感を得ることができるようにした。さらに、聞き取った内容を新出文法の導入場面でも用いるなど、言語活動の連続性を意識した。

### ③ 伝えたい内容を英語で書く活動

「書くこと」の活動は、英語を「聞くこと」「話すこと」の言語活動を十分に行ったあとで取り組むこととした。例えば、英問英答の言語活動を行ったあと、得ることができた情報や自分の意見を英語で書く活動を与えたり(資料1-①)、重要表現の学習で、聞いたり話したりする言語活動を通して理解を深めたあと、ペアあるいはグループで設定場面の会話文を作る活動を取り入れたりした(資料1-③)。そして、書いた内容をクラスで発表する活動へと発展させ、学習成果の実感をめざした。

#### ④ クラスで発表する活動

評価の方法を工夫することによって、「できた」ことを実感できるよう、発表する言語活動を積極的に取り入れた。発表前には、確実に発話ができるよう指導したうえで練習時間を十分にとり、自信をもって発表ができるようにした。さらに、表情や身振り、小道具などを効果的に活用すること、大きな声でアイコンタクトをとりながら話すことなども指導し、発表の際には、それらについて互いに評価を行うことにも取り組んだ。聞き取れた内容をメモすることも指示し、英語で話された内容を理解できた実感を与えることもめざした(資料1-④)。

#### ⑤ スラッシュリーディング

様々な技能(スキル)を身につけることは、確実に目標を達成するうえで必要である。本実践では、英文を読んで理解するための技能を習得する第一段階としてスラッシュリーディングを取り入れた。単元の指導の終末に教科書本文の英語とその日本語からなるワークシートを用意した。その際、英文を意味のまとまり(チャンク)ごとにスラッシュで区切り、日本文を英語の語順のまま示した。すべての新出事項について確認できるよう、要点を書き込みながら学習する形式を取り入れた(資料1-⑤)。

#### ⑥ ペアやグループでの音読練習

英語で書かれた内容を正確に理解したあと、その意味・内容を正しく伝える音読ができることをめざし、様々なパターンでの練習に取り組んだ(資料1-⑥)。英文の拡大コピーを黒板に貼り、指導者に続いて生徒がリピートするコーラスリーディングや部分的に単語や表現を隠して読む練習などに取り組んだあと、ペアやグループでの練習を行っ

た。日本語を聞いてそれを英語で表現できるようになることをめざし、スラッシュリーディング形式のワークシートを用い、短いチャンクごとに言い換える練習も行った。チャンクはひとつずつから開始し、徐々に2つ3つをつなげて練習するなど、一人一人の能力に応じた練習ができるよう工夫した。繰り返すことによって必ず達成できる言語活動をめざした。

#### ⑦ グループで取り組む活動

簡単な詩をグループごとに作成し、リズムをつけて発表する言語活動を設定した。与えられた文中で単語を自由に入れ替えて表現する言語活動とすることで、すべての生徒が参加することができ、さらに完成した詩を発表することで達成感を高めることをめざした。各グループに辞書を準備し、用いる語彙を限定することなく英語で表現する活動を楽しめるように工夫した。

### (2) 評価に関する工夫

(1)の言語活動における工夫に加え、本実践では、生徒が学習の達成感から学習の成果を味わえるよう、授業の開始時に指導者が目標を生徒に示し、授業終了時にその達成状況を自己評価させた。図IV-1は、生徒が記入した「自己評価シート」である。指導者が示した目標について達成度と感想を記入する形式で、指導者は、一人一人の生徒の達成状況や学習に対する意欲を把握することができ、生徒の実態に応じた言語活動を設定するために活用した。

Figure IV-1 is a self-evaluation sheet. It contains the following text:

- 目標の達成度** (Target Achievement): 意見をしっかり言えて、聞くこと。
- ◎TODAY'S SUBJECT (目標)** (Today's Subject / Target): 十分達成 ・ まあまあ ・ あと一歩
- ◎TODAY'S FOCUS (学習内容)** (Today's Focus / Learning Content): Do you <sup>(think hope know)</sup> that ~ ?
- ◎IMPRESSIVE** (Impressive): 感想
- 感想** (Thoughts): 自分の意見を英語で言うのがわかった。もと自分の意見を言ったりしたら、自然に思えると思っ。

図IV-1 「自己評価シート」

### (3) 実践の結果

#### ① 言語活動に取り組む生徒の様子

表3は、設定した言語活動に取り組んだあと実際に行った評価および生徒の様子に関する指導者のコメントと生徒が自己評価シートに記入した感想の一部である。

言語活動(A)～(D)における評価の欄の規準(あ)は「言語活動への取り組み」に関するものである。どの活動においても「十分満足できる」あるいは「おおむね満足できる」状況である生徒がほとんどである。規準(い)(う)についてもほとんどの生徒が満足できる状況となっている。また、指導者のコメントからも、生徒が言語活動に積極的に取り組み、授業が順調に進んだことがわかる。

さらに、生徒の感想からは、活動がおもしろかった、楽しかったという声とともに、伝えることができた、理解することができた喜びがうかがえる。そして、英語を学習する上で必要な技能に気づいていたり、言語活動を繰り返し経験していくうちに、「わかるようになった」「理解できた」という感想が増えてきていることもわかる。自分が「できた」ことを振り返ると同時に、友だちも言語活動に積極的に取り組んでいたことについて書かれている。そして、積極的に言語活動に取り組んだ結果、「がんばって発言したい」「もっとがんばりたい」「早く発言したい」「また辞書を使いたい」という意欲を高めていることがわかる。

表3 言語活動に取り組む生徒の様子（評価の実際、指導者のコメントおよび生徒の感想）

	評価 および 指導者のコメント	生徒の感想																								
(A) 英問英答を行う活動	<p>積極的に言語活動に取り組んでいる【観察】</p> <p>伝えたい内容を話して正確に伝えることができる【観察】</p> <p>質問に対して、適切に答えることができる【観察】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規準</th> <th>(あ)</th> <th>(い)</th> <th>(う)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>十分満足できる</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>おおむね満足できる</td> <td>17</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>満足できる状況と言えない</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>欠席</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table> <p>以後も継続的に指導を続けている</p> <p>活動後におもな誤り等は指導した</p> <p>・英語を使って何かをするということを楽しみ、喜びを感じていたと思う。</p>	規準	(あ)	(い)	(う)	十分満足できる	15	17	19	おおむね満足できる	17	15	14	満足できる状況と言えない	3	3	2	欠席	6	6	6	合計	41	41	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を使ってたくさん話せた（多数）</li> <li>友だちと英語で会話をしておもしろかったです。</li> <li>大きい声で質問をしたり答えたりすることができた。</li> <li>（友だちに質問をして持ち主を探す活動で）英語で何を言っているかわかっておもしろかった。</li> <li>（アンケート調査で）意見を述べるのが以外に楽しかったです。みんなのこともわかってよかった。</li> <li>英語で意見を聞くこと、話すこと、答えることは、とても大切なことだと思います。それに言えたときやわかった時の瞬間がすごく楽しい♪</li> <li>自分の意見を英語で（どう）言うのかわかった。もっと自分の意見を言ったりしたら、（英語を）自然に覚えられると思う。</li> <li>自分のことを英語で言うのは難しい。でも楽しい。</li> <li>今まで自分のことを発言することがなかったけど、これからできる限りがんばって発言していきたい。</li> </ul>
規準	(あ)	(い)	(う)																							
十分満足できる	15	17	19																							
おおむね満足できる	17	15	14																							
満足できる状況と言えない	3	3	2																							
欠席	6	6	6																							
合計	41	41	41																							
(B) 概要を聞き取る活動	<p>積極的に言語活動に取り組んでいる【観察】</p> <p>文法に従って正しく書くことができる【ワークシート】</p> <p>語句・表現、文章形式などを選択し、書くことができる【ワークシート】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規準</th> <th>(あ)</th> <th>(い)</th> <th>(う)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>十分満足できる</td> <td>22</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>おおむね満足できる</td> <td>13</td> <td>19</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>満足できる状況と言えない</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>欠席</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table> <p>ワークシートの再提出</p> <p>・聞き取りのポイントをまとめたワークシートを頼りに積極的に取り組んでいた。</p> <p>・tomorrow は未来のことを意味するという既習事項から、be going to … の意味が推測できていた。</p>	規準	(あ)	(い)	(う)	十分満足できる	22	14	13	おおむね満足できる	13	19	19	満足できる状況と言えない	0	2	3	欠席	6	6	6	合計	41	41	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生がヒントをくれたから簡単だった。</li> <li>be going to が理解できた。リスニングも（選択肢から答えを）選ぶのですごくわかりやすかった。</li> <li>むずかしかったけど、ヒントになる単語を見つけたらある程度わかるようになってきた。</li> <li>リスニングはポイントをつかむとわかりやすい。</li> <li>いつも長い文を聞くときはどこを聞けばいいかわからなくて難しかったけど、聞くところだけ（ポイント）を聞くやり方で解けた。ポイントさえわかればあとはわかる。</li> <li>長い文でも全部理解しなくていいと思うと簡単だった。</li> <li>リスニングはコツがわかってきたような…。</li> </ul>
規準	(あ)	(い)	(う)																							
十分満足できる	22	14	13																							
おおむね満足できる	13	19	19																							
満足できる状況と言えない	0	2	3																							
欠席	6	6	6																							
合計	41	41	41																							

<p>(C) クラスで発表する活動</p>	<p>積極的に言語活動に取り組んでいる [観察]</p> <p>適切な速さや声の大きさで話すことができる [発表]</p> <p>be going to / will の意味・用法を理解し、正しく用いることができる [ワークシート]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規準</th> <th>(あ)</th> <th>(い)</th> <th>(う)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>十分満足できる</td> <td>21</td> <td>11</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>おおむね満足できる</td> <td>14</td> <td>23</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>満足できる状況と言えない</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>欠席</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table> <p>以後も指導を継続している</p> <p>ワークシートの再提出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日ごろ大きな声で音読などをしない生徒も積極的に発表にむけた準備をしていた。</li> <li>・人前で話すことが苦手な生徒でも苦手を克服しようとして努力していた。</li> </ul>	規準	(あ)	(い)	(う)	十分満足できる	21	11	21	おおむね満足できる	14	23	10	満足できる状況と言えない	2	3	6	欠席	4	4	4	合計	41	41	41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の10年後について書くのはおもしろかった。早く発表したい。</li> <li>・発表で緊張して、台詞をしゃべるだけになってしまった。でも、台詞を覚えられてよかったです。</li> <li>・覚えていなくてちょっと失敗した。次はがんばりたい。</li> <li>・人前で発表するのは、恥ずかしかった。みんながんばっていた。</li> <li>・大きい声で発表できたと思う。</li> <li>・アイコンタクトをとりながら発表をするのは、すごく難しかった。でも、もっとできるようになりたい。</li> <li>・みんなの将来も聞けたし、楽しい授業だった。</li> <li>・自分のことについて話をするほうが言いやすいし、他の人の(発表)を聞くとおもしろかった。またやってみよう。</li> <li>・友だちの発表を聞き取ったり、聞いたことを言ったり(伝えたり)できてよかった。</li> </ul>
規準	(あ)	(い)	(う)																							
十分満足できる	21	11	21																							
おおむね満足できる	14	23	10																							
満足できる状況と言えない	2	3	6																							
欠席	4	4	4																							
合計	41	41	41																							
<p>(D) グループで取り組む活動</p>	<p>辞書を活用しながら、表現したい内容について書くようにしている [観察]</p> <p>基本的な強勢、イントネーションを身につけて話すことができる [発表]</p> <p>色に関する考え方や文化の違いを理解しようとしている [観察]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>規準</th> <th>(あ)</th> <th>(い)</th> <th>(う)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>十分満足できる</td> <td>16</td> <td>2</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>おおむね満足できる</td> <td>17</td> <td>31</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>満足できる状況と言えない</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>欠席</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>41</td> <td>41</td> <td>41</td> </tr> </tbody> </table> <p>個別指導を行った</p>	規準	(あ)	(い)	(う)	十分満足できる	16	2	20	おおむね満足できる	17	31	13	満足できる状況と言えない	1	1	1	欠席	7	7	7	合計	41	41	41	<p>(グループで取り組むことに関して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながんばっていた。</li> <li>・リズムによって英語の詩を言ったら、発音をしっかりと覚えることができた。</li> <li>・みんなと詩を作ったり、リズムによって発表したりするのは楽しかった。でも、意見がばらばらで困った。</li> <li>・リズムをつけて発表するのは、あまりうまくできなかったけど、楽しかった。</li> </ul> <p>(辞書を使うことに関して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・辞書の使い方がわかった。これからは辞書を使っていろいろ調べたいと思う。</li> <li>・辞書を使って楽しかった。またしたい。</li> <li>・辞書を使って単語を調べるのは難しかったけど、楽しかった。また使いたい。</li> </ul>
規準	(あ)	(い)	(う)																							
十分満足できる	16	2	20																							
おおむね満足できる	17	31	13																							
満足できる状況と言えない	1	1	1																							
欠席	7	7	7																							
合計	41	41	41																							

## ② 生徒の変容

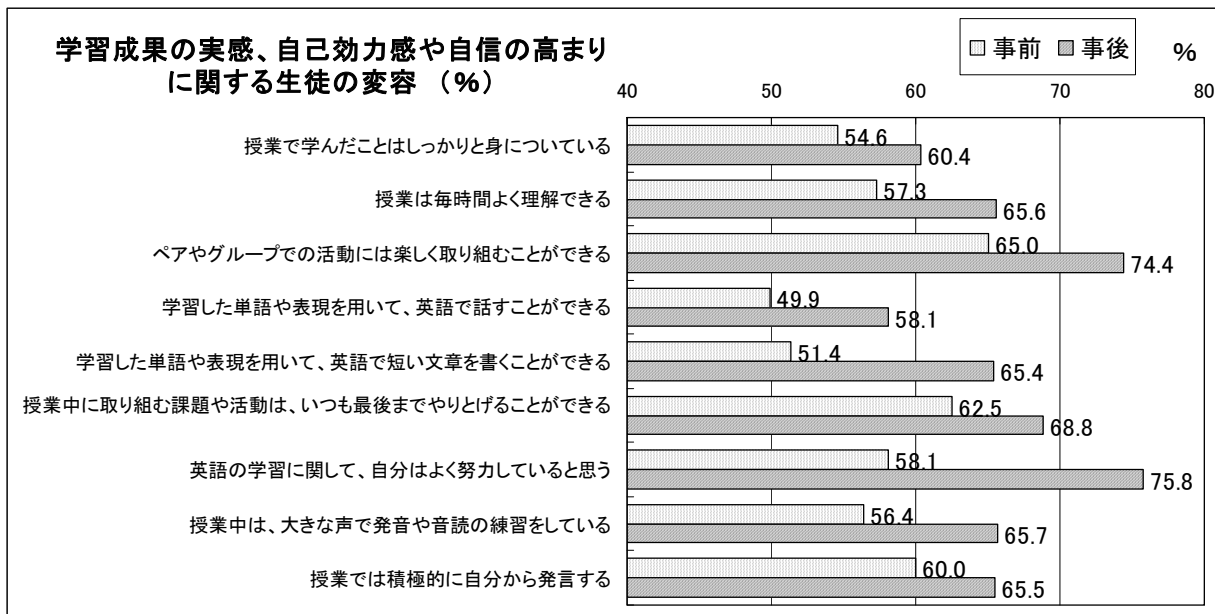
次に、実践を通しての生徒の英語学習に対する意識や学習行動の変容について述べる。

まず、学習意欲を高めると考えた要因に関する項目について考察する。図IV-2 (p. 12) は、それらの項目における肯定度の変化である。「授業で学んだことはしっかりと身につけている」「授業はよく理解できる」といった項目に対する肯定度の変化から生徒が学習の成果を実感していることがわかる。そして、実際にペアやグループでの活動を通して学んだことによって、そのような活動に「楽しく取り組むことができる」と答えた生徒が増えたと考えられる。また、生徒が学習に対する自己効力感を高めたことは、英語で「話すことができる」「文章を書くことができる」「活動は最後までやり

とげることができる」といった項目に対する肯定度の変化から認められる。このように、学習の成果を実感したこと、自己効力感を高めたことによって、「自分はよく努力している」という自信を高め、「大きな声で練習している」「積極的に自分から発言する」など学習活動に積極的に取り組んだこともわかる。

毎時間取り組んだ生徒の自己評価(p. 9, 図IV-1)の結果からは、生徒が達成感を得ていたことも認められる。各時間の目標が「十分達成」あるいは「まあまあ」達成できたと答える生徒がどの授業においてもほとんどで、「あと一歩」と答える生徒はほとんどいなかった。

指導者もまた、生徒が言語活動を通して達成感を持ち、自信や意欲を高めていく様子について次のようにとらえ、考察している。



図IV-2 学習成果の実感、自己効力感や自信の高まり

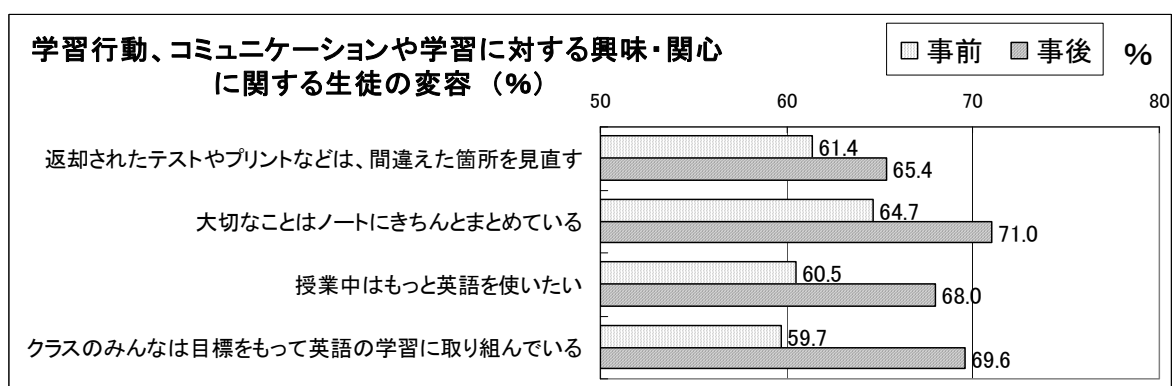
- ・本実践以前よりどんな活動にも前向きに取り組む生徒が多かったが、生徒どうしの対話、ロールプレイングやその他の発表する活動によって、英語を使うことを楽しみ、喜びを感じられていたと思う。
- ・どんな活動をする際にもヒント(達成のための手立て)を与えてきたので、生徒が以前よりも楽な気分で取り組んでいた。それが良い結果となり、英語に対する苦手意識が少し和らいだのではないかと考える。

さらに、生徒の意識の変容が認められる項目を図IV-3に示す。まず、「間違えた箇所を見直す」「ノートをきちんとまとめている」など学習行動の改善がうかがえる。また、「授業中はもっと英語を使いたい」に対する肯定度の変化から、コミュニケーションを図ることや学習に対する意欲が高まっていることもわかる。さらに、「クラスみんなは目標をもって学習に取り組んで

いる」に対する回答は10ポイント近く高くなっており、学級全体の学習意欲の向上がうかがえる。

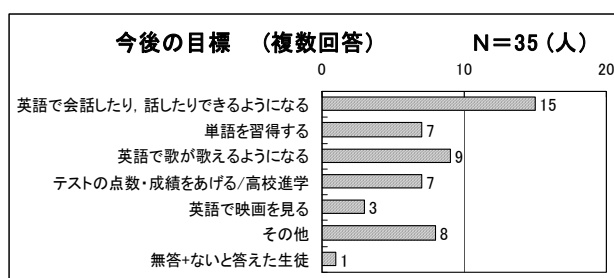
生徒が英語でコミュニケーションを図ることや学習に対する意欲を高めたことは、次の点からもうかがえる。まず、実践後に「英語で会話をしたり、読んだり書いたりするために、英語の発音や単語、文法などをしっかり身につけようと思いますか」と尋ねたところ、35名中26名の生徒があてはまると答えている。

さらに、今後の英語学習の目標について生徒に尋ね、自由記述で回答を求めたところ、図IV-4に示すような項目に分類される結果となっ



図IV-3 学習行動の変化とコミュニケーションや学習に対する興味・関心の向上

た。「会話したり，話したりできるようになる」ことが目標であると答えた生徒が多かった(15名)が，それ以外にも「歌を歌う」「映画を見る」など様々な目標があった。自分の興味・関心に応じた目標をもちながら，そのために「単語を習得する」など必要な知識を身につけることをめざしていることがわかる。また，「テストの点数・成績をあげる」を目標とした生徒も7名おり，確実に学習成果を実感する手段として，評価テストをとらえている状況もうかがえた。



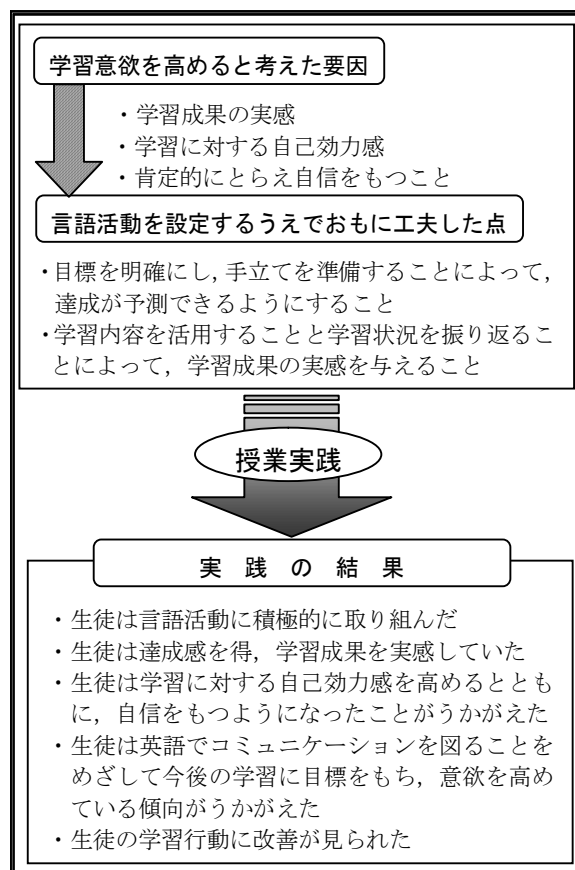
図IV-4 今後の学習の目標 (複数回答)

#### (4) 実践の考察と仮説の検証

本実践における言語活動の設定，実践とその結果は，図IV-5のとおりまとめられる。以下に，実践の内容と結果を考察し，仮説を検証する。

まず，設定した言語活動に生徒が積極的に取り組んだという結果から，本実践において工夫した点が生徒の言語活動に取り組む意欲を高めるうえで有効であったことがわかる。

特に効果が大きかったと考えられる点は，目標を明確にしたうえで，その達成のために工夫を加えた言語活動を設定し，授業に位置づけたことである。指導者は，生徒のどのような能力を育てたいのかという長期的な展望をもったうえで，短期的な計画を立て，言語活動につながりをもたせた授業を設計した。そのようなスモールステップの目標設定によって配列され



図IV-5 実践1のまとめ

た言語活動は，目標を達成することに対する生徒の意欲を高め，積極的な取り組みへとつながったと考えられる。指導者も目標を明確にした指導に関して，次のようにコメントしている。

・ 言語活動は，以前から取り入れることに努めていたが，(本実践を通して)授業の目標が以前よりもきちんと設定できていたので，目標に応じた内容の言語活動が実践できたと思う。

・ 生徒が積極的に取り組もうとする言語活動は，生徒がもしろいと感じることができ，興味をもつことができる内容で，達成感を味わうことができる活動であると思う。

・ 言語活動を設定するうえでは，生徒が「きのうよりも自分は〇〇ができた」と感じられることを考慮し取り入れた。以前は少し(目標設定が高く)難しい言語活動を与えていたが，生徒が安心して(抵抗なく)取り組み，結果に満足すれば，学習に対する意欲が高まるのではと思うようになった。

生徒が言語活動に積極的に取り組むことによって達成感を得，学習成果を実感することにつながったという結果は，適切な支援が必要に応じて与えられ，効果をあげたことを意味する。指導者は，モデル文や参考語彙等をどの程度ま

で与えれば良いかについて試行錯誤しながら実践を行ったが、支援を与えずに、言語活動に対する「取り組み甲斐」を失うことのないような適切な配慮がされていた。特に、生徒が身近な事実について英語で聞いたり、話したりする言語活動を十分に行ったうえで、学習プリントに書いて表現する機会を設けたこと(資料1-③)、参考語彙やモデル文を示すことによってすべての生徒が達成できるように工夫したこと(資料1-④)、言語活動の評価を確実にを行い、満足できる状況と言えない生徒に対して、ワークシートの再提出や補充指導を行ったり、継続指導を続けるうえで授業においても配慮したりしたこと(p.10,表3)などがたいへん有効であったと思われる。指導者による生徒一人一人に応じたきめ細かな支援が、言語活動に取り組む生徒の意欲を持続させ、その結果、目標が達成できたことによって、次の言語活動への期待感や自己効力感、さらには自分自身に対する自信を高めることにつながったと思われる。また、自身の学習行動を自己評価することを通して、生徒一人一人が言語活動を通して得られる学習成果を確実に実感したことも生徒の変容につながったと考えられる。

さらに、本実践を通しては、生徒が英語を様々なコミュニケーションの手段として用いることを目標とするようになったり、生徒の学習行動にも改善が認められたりしたという成果も得た。生徒一人一人が学習の目標を明確にもち、授業を通して一步一步目標に近づいていることを実感することによって、学習に取り組む意欲を高め、そのことが積極的な学習行動に現れたと考えられる。そして、その背景で、目標を明確にしたスモールステップでの活動の設定と実践、達成のための手立ての準備、目標

達成の積み重ねと学習成果の実感、自己効力感や自信の高まり、自己評価による振り返りなど指導者と生徒の双方が努力したことのの一つ一つが互いに良い影響を与え合ったといえる。

本実践を通して、積極的に言語活動に取り組む続けることが、生徒の学習意欲の向上につながるという仮説を検証することができた。また、生徒が積極的に取り組む言語活動とするうえで、めざす生徒像や各言語活動の達成目標を明確にすること、学習意欲を高める要因を把握し、それらをふまえて実態に応じた工夫を加えることが有効であることが明らかになった。

## 2. 実践事例2

### (1) 言語活動の設定

実践1と同様、生徒対象に実施した質問紙調査の結果と指導の実態から、学習意欲を高める要因を把握した。

質問紙調査からは、表4にあげた項目において、肯定度が低いことがわかり、指導者からは英語を実際に使うコミュニケーションな言語活動を授業で行う機会が少ないというコメントがあった。授業中の生徒の様子からも英語の学習を知識・理解を中心としたものととらえている傾向がみうけられた。

質問紙調査の結果において肯定度が低かった項目と指導の実態から考察した結果、学習意欲を高めると考えられる要因は、コミュニケーションを図ることや学習内容に対する興味・関心を高めること、学習(活動)の達成感を実感させることではないかととらえた(表4)。

そこで、生徒からの発言を引き出す雰囲気を作りながら、大きな声で英語を「話すこと」を中心に様々な言語活動を取り入れることによって、英語でコミュニケーションを図ることや

表4 肯定度の低かった項目から考察した学習意欲を高めると考えられる要因

質問項目	肯定度 (%)	学習意欲を高める要因
授業中は、大きな声で発音や音読の練習をしている	26.0	コミュニケーションに対する興味・関心
英語の授業では積極的に自分から発言する	28.1	
ALTに積極的に話しかけていきたいと思う	30.5	
英語で何か聞かれたとき、間違いをおそれず何か答えようとする	41.5	学習内容に対する興味・関心
クラスメイトは目標をもって英語の学習に取り組んでいる	44.4	
英語の授業中にもっと英語を使いたい	44.7	学習(活動)の達成感
英語の授業はおもしろい楽しい	45.2	
先生は努力したことに対して評価してくれるので勉強の励みになる	45.4	
学習した単語や表現を用いて、英語で話すことができる	46.1	
英語を学習する目的や目標がある	47.6	

学習内容に対する興味・関心を高めことをめざした。また、学習の達成感をもたせるために、授業の開始時に生徒に目標を示し、指導者、生徒ともに達成目標を意識して授業にのぞむこととした。

以下に、取り組んだおもな言語活動について、工夫した点とその意図を述べる。

### ① フラッシュカードを用いた活動

本実践ではまず、生徒が大きな声で発言することができるようにすること、それがコミュニケーションの手段として英語を学習するうえで必要な学習活動だと意識づけることをめざし、指導者が作成したフラッシュカードを活用した言語活動を設定した。様々なパターンで、おもに単語を「聞くこと」「発音すること」の指導を中心に行った。クラス全体から徐々に少人数にし、単元の指導の終末では、示されたカードを一人でも自信をもって発音することができるよう段階的に指導を行った。そのうえで、カードを見ながら意味を確認したり、指導者が発音した単語を書き取ったりする活動へと展開することも試みた(資料2-①)。

### ② 英問英答を行う活動

生徒が英語を積極的に使うことをめざし、英問英答の言語活動を様々な形式(指導者⇄クラ

ス全体、生徒⇄生徒、ペアを固定せずなど)、様々な指導場面(前時の復習、新出事項の確認、単元のまとめとしてなど)で積極的に取り入れた。また、問答活動を通して得た情報を書いたり、話したりしてクラスに報告する言語活動へと展開することも試みた(資料2-②)。その際には、目標を達成するための手立てとして事前に十分な口頭練習を行うこととした。聞く・話す内容や方法を活動ごとに工夫し、生徒が「知りたい」「伝えたい」「おもしろそう」「楽しそう」と思うものとなるよう心がけた。

### ③ 教材を工夫した活動

生徒の興味・関心を高めることを念頭におき、写真や絵などについて問答する言語活動や、興味もてるイラストや英文を含んだプリントで学習する時間を設けるなどの工夫をした。生徒にとって身近なものを教材として活用することで、興味をもってそれについて聞いたり話したりするコミュニケーションを行う活動をめざした。

### ④ 概要を聞き取る活動

英語で話される内容を聞こうとする意欲を高める工夫を様々に行った。具体的には、題材に関する興味が高まるよう英語を交えた問答活動を通して、生徒に題材の背景知識を与えた

り、様々な情報の提供を行ったりした。また、内容理解のポイントや質問事項を黒板やワークシートに示したりもした。生徒の実態に応じるため、使われることが予想される単語や表現をあらかじめ確認する、答えを選択肢で示す、答えであると考えた部分の音だけでもワークシートに記入するよう指示するなど試みた(資料2-④)。

### ⑤ 伝えたい内容を英語で書く活動

伝えたい内容を正しく書くことや内容にまとまりのある文章を複数の英文で書くことについては、継続的な指導が必要である。そこで、本実践では、身近な題材について口頭での「話すこと」「聞くこと」の言語活動を十分に行ったあと、話した内容を「書くこと」の活動として積極的に取り入れた。短い文を1～2文程度書くことから始め(資料2-②)、単元の集大成として3～5文程度を書くなど継続的、段階的に指導した。まとまった量の文章を書く段階では、学習した文法事項を活用して身近な事実について書く活動を設定し、モデル文を例として示したり、指導者自身が書いたものを準備したりするなど、達成のための手立てを講じた。さらに、英文だけでなく内容を表す絵を描いたものを作成として教室に掲示することで、評価も意識させるなどの工夫をした。

### ⑥ クラスで発表する活動

毎時間の授業において、生徒が発言する機会を積極的に作ることから始め、一人あたりの発話を1語から複数語、1文から2～3文程度と段階的に増やし、間違えることを恐れず、大きな声で発表ができるよう言語活動を工夫した。短いものは、フラッシュカードに示された単語の発音と意味を言うだけであったり、指導者の質問に対して英語や日本語で答えたりするもの

である。問答活動を行ったあとや英語で文を書いたあとには、生徒が発表する機会をできる限り与えるようにした。

### ⑦ 音読活動の工夫と音読テスト

単元の学習の開始時に音読テストを予告し、単元の指導を通して様々なバリエーションで音読活動を行った。本実践では、まず、すべての生徒が音読できることを目標に、教科書の英文の意味を確実に理解したうえで、英語のリズムや基本的な抑揚およびイントネーションを学ぶこととした。これらを音読テストの評価の観点として生徒に示し、拡大コピーを見ながらリズム等を理解させる全体練習を行った。さらに、ペアで練習させ、発音を確認する機会も与えたうえで、家庭での練習を宿題とし、単元の学習終了後、一人ずつ音読テストを行った。

## (2) 実践の結果

### ① 言語活動に取り組む生徒の様子

設定した言語活動に取り組む生徒の様子について、指導者からは表5のようなコメントを得た。生徒が積極的に取り組んだことを示すものが多く、言語活動を重ねるうちに生徒がだんだんと大きな声を出したり、一人でも発言、発表ができるようになっていったりしていきの様子が見える。また、カタカナで書いたり、友だちに聞いたりするなど、学習活動の達成のために努力していることもわかる。実際、事後の意識調査の結果、「積極的に発言する」「大きな声で発音や音読の練習をしている」という項目に関しては、図IV-6(p.18)のとおり、肯定度が大きく変化している。生徒の感想にも、次のような記述があり、英語を聞いたり話したりする言語活動を楽しみながら積極的に取り組んだ様子が見える。

表5 設定した言語活動に取り組む生徒の様子に関する指導者のコメント

①フラッシュカードを用いた活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の発音をまね、正しく発音しようと努力している様子がうかがえる。</li> <li>・(授業で取り組む回数が増えるにつれ) だんだんと発音練習時の声が大きくなってきている。</li> </ul>
②英問英答を行う活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは、話すことに少し恥ずかしさがあるようだったが、(友だちどうしなど)個人対個人であれば、声に出して英語で話すことができるようになってきた。</li> <li>・(回数を重ねるたびに) 席から早く立って、質問をしに行くようになってきた。</li> <li>・質問をした結果を発表する活動や書く活動へとさらに展開させていくうえで、時間配分を工夫したり、活動の取り組み方をわかりやすく説明したりすることが必要である。</li> </ul>
③教材を工夫した活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は、芸能人の写真を使つての活動に興味を示していた。プリントのイラストも普段と違うものを使うと絵に興味を持っていた。</li> <li>・(示される写真に興味をもつことで、指導者の英語での質問に耳を傾けていたので)、言語活動に取り組む機付けになったと思う。</li> <li>・生徒の知っているまたは興味のもてるものを教材として使うべきだ。生徒が注目し導入をスムーズに行うことができた。</li> </ul>
④概要を聞き取る活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取りのポイントをふまえて、意欲的に取り組んでいる姿勢を感じた。</li> <li>・単語が書けない時もカタカナで書くなどあきらめずに取り組む生徒が見うけられた。</li> <li>・答え合わせをするときも積極的に答える生徒が増えた。</li> </ul>
⑤伝えたい内容を英語で書く活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル文をワークシートに示したことで、ほとんどの生徒が英文を完成することができていた。</li> <li>・学習事項(代名詞)を使って英文を書くことができていた。</li> <li>・予想以上の(積極的な)取り組みの姿勢に学習事項を活用する言語活動の効果を感じる。</li> </ul>
⑥クラスで発表する活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめは、前には行かせず、座席で立って発表することから取り組んだ。</li> <li>・だんだんと大きな声で発表できる生徒が増え、友だちの発表内容に関心をもって聞いている生徒も多かった。</li> </ul>
⑦音読活動の工夫と音読テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の拡大コピーを使うことで、驚くほど音読に対する(がんばろうという)姿勢が表れていた。楽しんで取り組んでいた。</li> <li>・ペアでの練習活動は積極的に取り組む生徒が多く、読めないところなど自分の苦手なところを確認していた。</li> <li>・音読テストは生徒一人一人と英語(の学習)について話ができる良い機会であった。</li> <li>・音読テストの結果は、筆記テストにおいて満足できる結果を出すことができていない生徒にとって自信となると思う。</li> <li>・音読テストに向けて、カタカナをふってでも読もうする生徒や感情をこめて表現しようとする生徒がいた。</li> <li>・(テストで)読むページを生徒に選択させたが、学習意欲の高い生徒はあえて難しいページを選ぶなど、チャレンジする姿勢が見られた。</li> </ul>

- ・友だちと英語で話をしたり、質問に答えたりすることができたのでよかった。ほかの英語も話せるようになりたい。
- ・CDをしっかりと聞いた。内容も理解できた。
- ・(友だちの発表を聞いて) みんなアイディアがいいなあと思った。
- ・音読の練習がしっかりとできた。次の授業でする音読テストもがんばりたい。

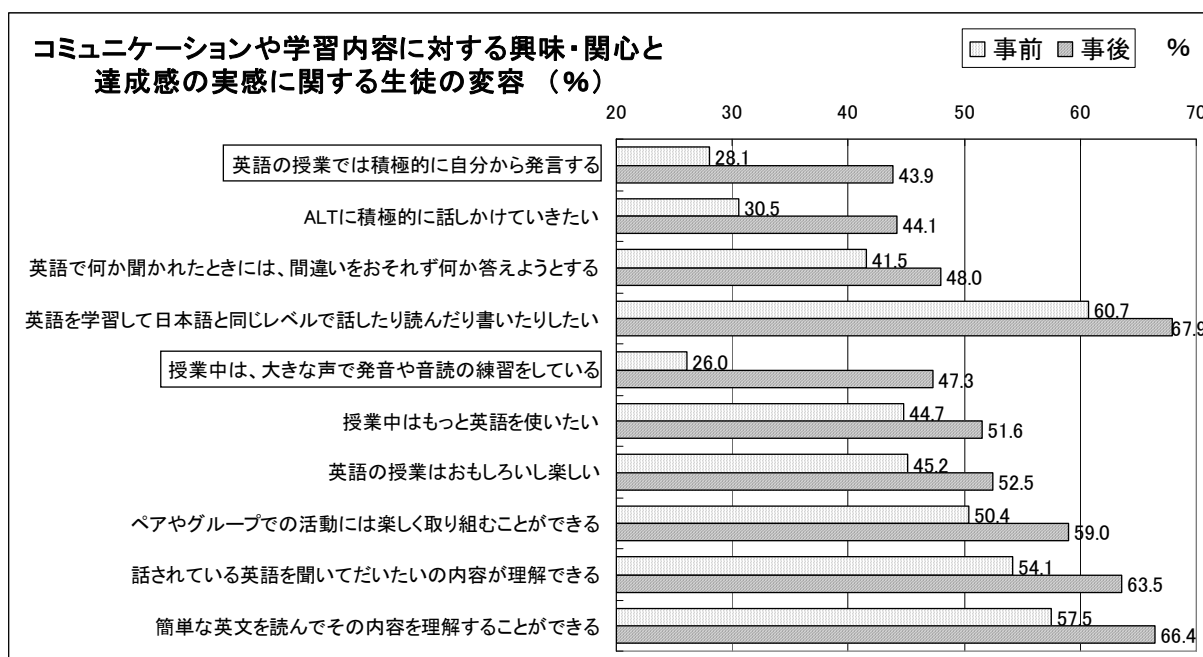
対して興味・関心を高めていることがうかがえる。これらの項目に加えて、「大きな声で練習をしている」「もっと英語を使いたい」「授業はおもしろい楽しい」「ペアやグループでの活動に楽しく取り組むことができる」といった項目においても肯定度が上がったことから、コミュニケーションを行うことをめざした英語の学習に対しても興味・関心を高めていることがわかる。そして、意欲をもって言語活動に取り組んだ結果、「聞いて理解できる」「読んで理解できる」など、学習の達成感を得ていることもわかる。

生徒がコミュニケーションを図ることや学習内容に対して興味・関心を高め、達成感を実感していたことについては、指導者も感じており、実践後の生徒の様子を次のようにコメントしている。

## ② 生徒の変容

次に、実践を通しての生徒の英語学習に対する意識や学習行動の変容について述べる。

まず、学習意欲を高めると考えた要因に関して変容が認められる項目(p.18, 図IV-6)について考察する。「積極的に自分から発言する」「ALTに話しかけていきたい」「間違いを恐れず英語で答えようとする」「日本語と同じレベルで英語を使いたい」といった項目から、生徒が英語を用いてコミュニケーションを図ることに

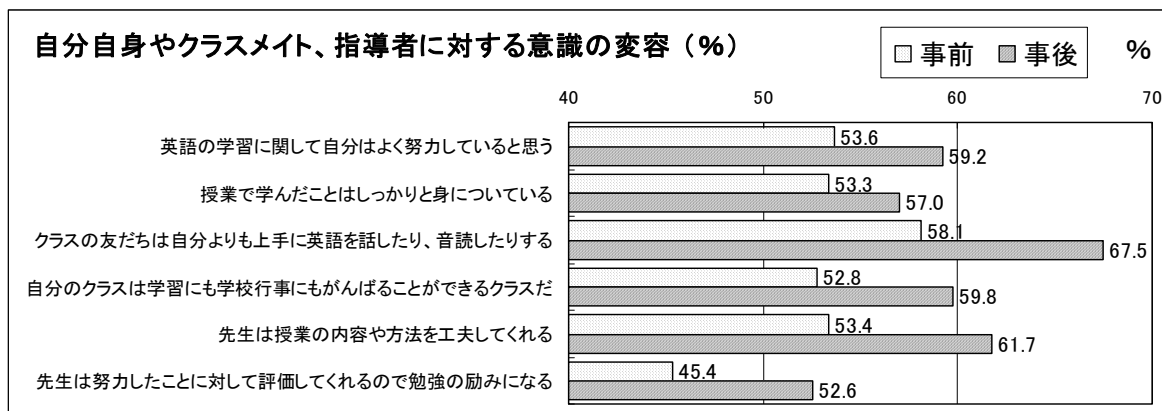


図IV-6 コミュニケーションや学習内容に対する興味・関心の高まりと学習の達成感の実感

- ・生徒は積極的に英語を口に出すようになった。授業以外でも英語であいさつをしたり、授業中でも大きな声で発音練習に取り組むようになった。
- ・生徒の中には(提示した)目標を意識して活動に取り組んでいる生徒がおり、満足感や達成感を実感していたと思う。

学習意欲を高めると考えた要因に関する項目以外にも生徒の変容が認められた(図IV-7)。まず、「学習に関してよく努力している」「学んだことが身についている」に対して肯定度が上がっていることから、生徒が学習成果を実感し、自己を肯定的にとらえるようになったことがうかがえる。さらに、学習に取り組むうえで大切な動機付けの要因となるクラスメイトや指導者

<sup>10)</sup>に対しても意識の変容が認められる。クラスメイトについては、「上手に英語を話したり、音読したりする」という項目に対して肯定度が上がっている。自分自身が言語活動に積極的に取り組んだことによって、友だちの言語活動への取り組み方が良くなっていることを実感したためであると考えられる。また、「学習にも学校行事にもがんばることができるクラスだ」の回答からも、仲間に対する意識が肯定的なものへと変化していることがわかる。また、指導者に対しても「授業の内容や方法を工夫してくれる」「努力したことに対して評価してくれる」とい

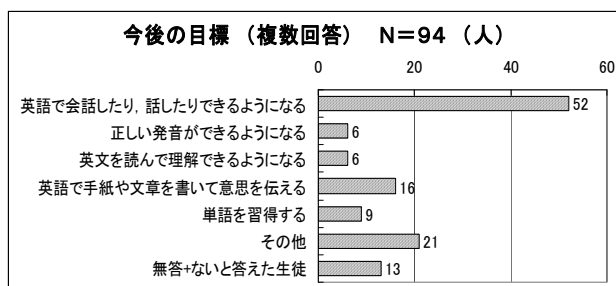


図IV-7 自分自身やクラスメイト、指導者に対する意識の変容

う項目において肯定度が上がっている。指導者は、自分自身やクラスメイトに対する生徒の意識の変容を次のようにコメントしている。

- ・教師に積極的に話しかけてくるようになった。その中で、自分の英語学習方法や英語に関するエピソードを話してくれた生徒もいる。
- ・Communicative English（コミュニケーションを行うために英語を用いること）を通じて、生徒と教師とのコミュニケーションが多くなり、距離が縮まった。それによって生徒が教師に親近感をもって接してくれるようになったと思われる。

今後の目標について生徒に尋ね、自由記述で回答を求めたところ、図IV-8のように分類される目標をもっていることがわかった。「英語を話したり、会話したりすることができるようにになりたい」と答えた生徒が94名中52名にも及ぶこと、それ以外にもコミュニケーションの手段として英語を用いることやそのために正しい発音や単語の知識などを習得することを目標とする生徒が多いことがわかる。

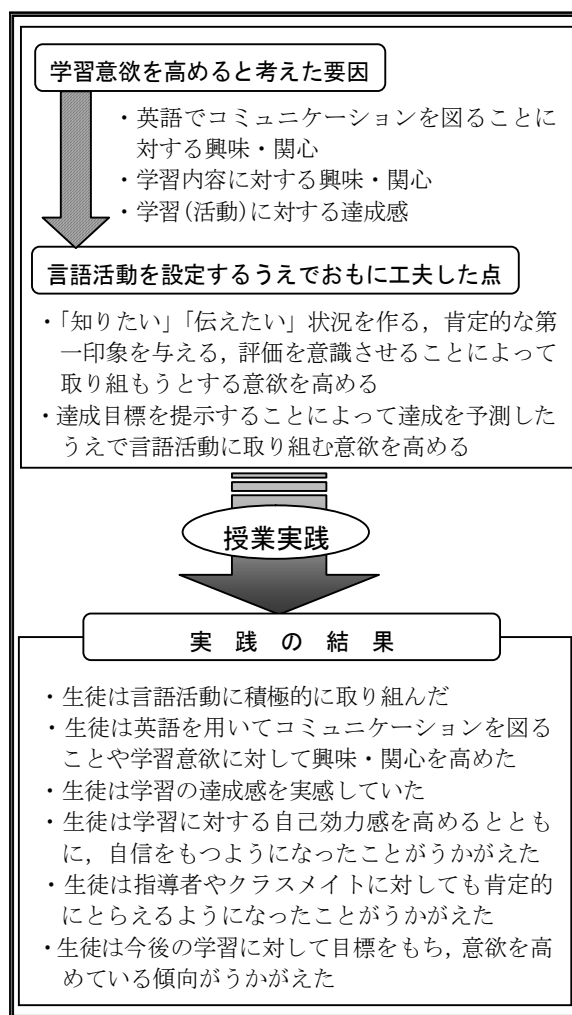


図IV-8 今後の目標（複数回答）

さらに、「英語で会話をしたり、読んだり書いたりするために、英語の発音や単語、文法などを身につけようと思いますか」と尋ねたところ、94名中66名の生徒があてはまると答えており、学習意欲の向上がうかがえる結果であった。

### (3) 実践の考察と仮説の検証

本実践における言語活動の設定、実践とその結果は図IV-9のとおりまとめられる。以下に、実践の内容と結果の関連を考察し、仮説を検証する。



図IV-9 実践2のまとめ

まず、実践1と同様、本実践においても設定した言語活動に生徒が積極的に取り組んだという結果から、工夫した点が有効であったことがわかる。特に、「知りたい」「伝えたい」ということができる言語活動やそのために必要な知識を得る言語活動によって、生徒がコミュニケーションを図ることへの興味・関心を高めるとともに、英語を声に出して練習する活動が英語を学ぶうえで、欠かせない学習活動であることを理解したことの効果が大きいと考える。

このことから、英語を用いてコミュニケーションを図ることに対する興味・関心を高めるためには、学習そのものが英語を用いてコミュニケーションを行うことをめざしたものでなければならないことがわかる。本実践においては、

指導者がこの点をふまえ言語活動を設定し、授業に位置づけたこと、そして、授業の達成目標を生徒に示したことによって、学習に対する生徒の興味・関心を高め、積極的に言語活動に取り組もうとする意欲の向上につながったと考えられる。

さらに、本実践においては、生徒が達成感を実感できたことや指導者やクラスメイトに対して肯定的にとらえるようになったという成果も得た。このことは、実践1と同様に、生徒が一つ一つの学習活動の達成を実感したことによって、学習に対する自己効力感を高め、自分自身を肯定的にとらえるようになったとともに、授業を通してクラスメイトや指導者ともコミュニケーションの機会が増えたことなど全てが有機的に関連した結果であると考えられる。

つまり、本実践においても、生徒が積極的に取り組む言語活動をめざして工夫した点が、学習意欲の向上につながる他の要因にも影響を及ぼす結果となったと言える。そして、様々な要因が関連し合うことで、生徒は今後の学習に対して目標をもち、身につける必要のある内容を学習しようという意思を表明したと考えられる。

以上から、本実践においても、言語活動に積極的に取り組み続けることが、生徒の学習意欲の向上につながるという仮説を検証することができた。また、生徒が積極的に取り組む言語活動とするために到達目標をふまえ生徒の実態に応じた工夫を加えることが有効であることも明らかになった。

## V 研究のまとめと今後の課題

本研究では、英語教育の目標や内容、現状と課題をふまえ、中学校外国語(英語)科の指導内容である言語活動に取り組もうとする意欲を高

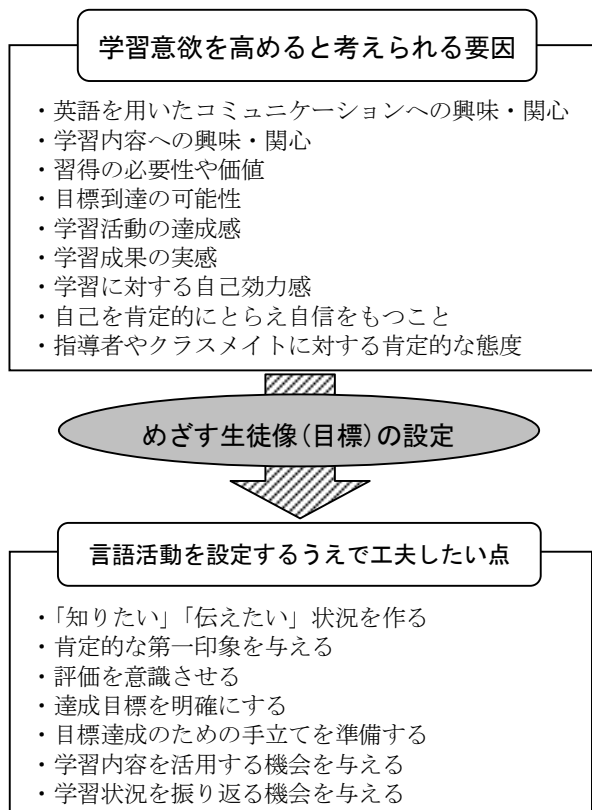
め、積極的に取り組み続けることによって、生徒の学習意欲はさらに高まるのではないかとという仮説のもと研究を進めてきた。

まず、生徒が積極的に取り組む言語活動とするための考え方や具体的な方法を探った。そして、生徒の英語学習に対する意識や指導の実態から学習意欲を高める要因をとらえ、それらをふまえて工夫を加えた言語活動を授業に位置づけた実践を行った。

一方の実践では、英語を用いてコミュニケーションを図ることへの生徒の興味・関心を生かし、さらに工夫を加えた言語活動を通して生徒が学習成果を実感できることをめざした。実践を通して、生徒は学習活動の達成感から、「次もできる」といった自己効力感や自分に対する自信を高めるようになった。実践後の意識調査からは、生徒が英語で会話ができるようになりたいなど具体的な目標をもつようになるとともに英語の音声や文法、語彙に関する知識・理解をさらに深めたいという意欲を高めていることがわかり、生徒の学習行動にも改善が認められた。

もう一方の実践では、生徒が英語を用いたコミュニケーションを図ることに対する興味・関心を高めることができるよう、言語活動を積極的に取り入れた。実際にコミュニケーションを行う活動やそのために必要な知識を得るための言語活動を通して、生徒は学習内容に対する興味・関心を高め、言語活動に積極的に取り組んだ結果、学習活動の達成感を得ることができた。実践後の意識調査では、もっと話せるようになりたいなど英語をコミュニケーションの手段として用いることを具体的な目標としてあげる生徒が多くなり、そのために言語材料に関する知識・理解をさらに深めたいという学習意欲の向上がうかがえた。

2つの実践から、生徒は積極的に言語活動に取り組み続けることを通して、一層学習に対する意欲を高め、到達目標をめざして基礎・基本を習得しようとするのがわかり、仮説を検証することができた。そして、生徒が積極的に取り組む言語活動とするためには、指導者が生徒の実態に応じた工夫を加える必要があることも明らかとなり、図V-1に示す点を考慮し、工夫することが有効であることがわかった。



図V-1 取り組む意欲を高める言語活動

研究を通して、以上の点を明らかにすることができた一方で、言語活動に取り組むことを通して高まった生徒の意欲を確実にコミュニケーション能力や英語の学力の向上へとつなげるための学習活動の内容・方法を追究し、実践する必要性も明らかとなった。今後、研究を続けていくうえでの課題は、次のとおりである。

- ・学習意欲を高めた生徒が学習内容を確実に身につけることができる学習活動と評価の内

容や方法を追究すること

- ・指導と評価の一体化をめざし、コミュニケーション能力や英語の学力に関する評価の内容・方法を追究すること
- ・学習活動の評価を確実にを行うことを通して、学習意欲の高まりがコミュニケーション能力や学力の向上につながることを明らかにすること

## おわりに

「実践的コミュニケーション能力」の育成をめざした学習指導要領が示されてから、十年近くが経とうとしている。その間、外国語(英語)科の指導のあり方に関して様々な研究や実践が行われ、指導者を対象にした指導法や英語力向上のための研修の機会も増えたことは事実である。しかし、生徒の実態からは、依然として多くの課題が残っている現状がみうけられる。このことは、英語教育に関わる指導者一人一人が、実践的コミュニケーション能力の育成をめざし、指導の改善にさらに取り組まなければならないことを意味していると考えられる。

本研究は、実践的コミュニケーション能力の基礎・基本となる英語を用いたコミュニケーションへの関心・意欲・態度と言語材料に関する知識・理解を備えた生徒を育成するうえで、言語活動を授業に取り入れ、学習意欲の向上を図ることの有効性を追究してきた。実践的コミュニケーション能力の習得をめざし生徒がいきいきと学習しながら能力を高めていくと同時に、指導者がそのような生徒の成長を実感し、喜びとできるような中学校英語教育の振興をめざすうえで、本研究が少しでも役に立つことができれば幸いである。

なお、本研究を進めるにあたって、研究協力委員の先生方には授業実践や多くの資料を提供していただいた。また、研究顧問である赤塚康雄先生には多くの指導を賜った。心よりお礼を申し上げる。加えて、多くの方々からご指導、ご批評をお願いする次第である。

#### 【研究協力委員】(50音順 敬称略)

岡本 亜希子 (大阪市立豊崎中学校)  
満谷 和代 (大阪市立東三国中学校)

#### 【引用・参考文献】

- 1) 文部省 「中学校学習指導要領(平成10年12月)解説－外国語編－」 東京書籍 平成11年9月 p.7
- 2) 文部科学省 『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」平成14年7月  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm)
- 3) 文部科学省 『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」平成15年3月  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/15/03/030318a.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/03/030318a.htm)
- 4) 文部科学省 『英語が使える日本人』の育成のための行動計画の策定について」平成15年3月  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/15/03/030318a.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/15/03/030318a.htm)
- 5) 文部省 「中学校学習指導要領(平成10年12月)解説－外国語編－」東京書籍 平成11年9月 p.9～p.10
- 6) 文部省 「中学校学習指導要領(平成10年12月)解説－外国語編－」東京書籍 平成11年9月 p.11, p.53
- 7) 国立教育政策研究所 「英語教育改善実施状況調査結果概要(中学校)」平成17年11月  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/001/06032211/001/001.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/06032211/001/001.pdf)
- 8) 国立教育政策研究所 「平成15年度教育課程実施状況調査 教科別分析及改善点(中学校・英語)」平成17年4月  
[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei\\_h15/H15/03001051030007004.pdf](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h15/H15/03001051030007004.pdf)
- 9) 動機付け(Motivation)は第二言語(L2)を習得するうえで最も重要な要因のひとつであると考えられている。参考文献は次の通りである。  
Dörnyei, Z. *"Motivational Strategies in the Language Classroom"* Cambridge University Press. 2001.  
Ellis, R. *"The Study of Second Language Acquisition"* Oxford University Press. 1994.  
Gardner, R.C. *"Social Psychology and Second Language Learning: The Role of Attitudes and Motivation"* London: Edward Arnold. 1985.
- 10) 第二言語習得における動機付け(L2 Motivation)の要因に関しては、以下の文献を参考にした。  
Dörnyei, Z. *"Motivation and Motivating in the Foreign Language Classroom"* Modern Language Journal 78. 1994. pp.273-284.  
Williams, M. & Burden, R. *"Psychology for Language Teachers"*. Cambridge University Press. 1997.
- 11) 外発的動機付け(Intrinsic Motivation)と内発的動機付け(Extrinsic Motivation)に関しては、次の文献を参考にした。  
Deci, E.L. & Ryan, R.M. *"Intrinsic Motivation and Self-determination in Human Behavior"* New York: Plenum. 1985.
- 12) 学習方略(Learning Strategy)とは、言語を学習する者が習得しようとする言語に関する知識を得、活用できるようにするうえで用いる学習方法や学習行動を意味する。参考文献は以下の通りである。  
O'Malley, J.M. & Chamot, A.U. *"Learning Strategies in the Second Language Acquisition"* Cambridge University Press. 1990.  
Oxford, R.L. *"Language Learning Strategies: What Every Teacher Should Know"* New York: Newbury House. 1990.  
竹内 理 「より良い外国語学習法を求めて－外国語学習成功者の研究」 松柏社 2003
- 13) このような学習については、Learner Autonomy, Self-Regulatory Learning あるいは、Strategy Training などと呼ばれる領域において研究されている。参考文献は以下の通りである。  
Benson, P. *"Teaching and Researching Autonomy in Language Learning"* Harlow: Pearson Education. 2001.  
Wenden, A. *"Incorporating Learner Training in the Classroom"* In Wenden, A. and Rubin, J. (eds.) *"Learner Strategies in Language Learning"* Cambridge: Prentice Hall. 1987.  
Wenden, A. *"Learner Strategies for Learner Autonomy"* New York: Prentice Hall. 1991.
- 14) 自己効力感(Self-Efficacy)については以下の文献を参考にした。  
Bandura, A. *"Self-Efficacy: The Exercise of Control"* New York: Freeman. 1997.

【資料 1】 実践事例 1 において取り組んだ言語活動の指導案およびワークシート等の例

① 「英問英答を行う活動」の例

＜学習指導要領における言語活動の領域と内容＞

- 聞くこと(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること
- 聞くこと(エ) 話し手に聞き返すなどして内容を正しく理解すること
- 話すこと(イ) 自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと
- 話すこと(エ) つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話が長くように話すこと
- 書くこと(ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと
- 書くこと(ウ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと

- ＜目標＞ ① 接続詞 that を含む構文を理解し、質問したり自分の考えを述べたりすることができる  
 ② 得た情報を英語で話して伝えることができる

＜評価規準＞ (あ)～(う)については、[ ] 内の方法による評価の結果を p.10 表 3 (A) に示している

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取り組み) (あ)【観察】積極的に言語活動に取り組んでいる	(正確な発話) (い)【観察】伝えたい内容を話して正確に伝えることができる	(正確な理解) 質問の内容を正しく理解することができる	(言語についての知識) 接続詞 that を含む文構造について理解している
(コミュニケーションの継続) 理解できないところがあっても推測したり、聞き返したりするなどしてコミュニケーションを続けようとする	(適切な発話・筆記) ・聞かれたことに対して適切に応答することができる ・語句や表現、文章形式などを選択し、書くことができる	(適切な理解) (う)【観察】質問に対して、適切に答えることができる	(文化についての理解)

＜活動の内容・方法と手順および留意点＞ 活動名：アンケート調査

1	接続詞 that を含んだ質問文を全体で練習し、意味・内容、答え方を確認する	できれば、理由も簡単な英語で言えるようにする
2	答えを予想してから、友だちに英語で質問をして意見を聞く	英語で問答をしているかどうか確認する理由も聞くことができれば、Why? と尋ねる
3	自分の意見やアンケート調査の結果を発表する	I think that ~. Because ~. Mr _____ thinks that ~. Because ~.
4	ひとつの質問文を選んで、自分の考えと理由を英語で書く	辞書や参考語彙などを用意しておく 教師も自分の考えを簡単な英語で言う

No.36 どちらの意見でSHOW?!

Class No. Name \_\_\_\_\_

① 次の意見について、あなたのクラスメートがどう思っているのか、インタビュー調査をしてみよう!

＜答え方＞ Yes, I do. / No, I don't.

② 何人の人が 'Yes' と答えるのか、予想人数を書きましょう!

スバリ  人

③ いよいよ、調査開始! ①の質問をクラスメートに聞きましょう。全員に聞き終わったら、'Yes' と答えた人数を書きましょう!

人

HELP 友だちに質問をもう一度言って欲しいときは、次の表現を使ってみよう!  
 ・ Pardon. ・ Repeat, please. ・ Say it again, please.

「聞くこと」「話すこと」から「書くこと」の言語活動へつなげた

- ＜質問＞ 自由に選んで質問する。
1. Do you think that it will be cloudy tomorrow?
  2. Do you think that Ms. Kida went shopping yesterday?
  3. Do you think that Mr. Masui likes *karaoke*?
  4. Do you think that Mr. Kamenashi is handsome?
  5. Do you think that sumo is popular in Japan?
  6. Do you think that students can come to school by bike?
  7. Do you think that students must study English?
  8. Do you think that you will drive a car in the future?
  9. Do you think that Natto is delicious?
  10. Do you think that Osaka is a good city?

コミュニケーションを継続するために必要な表現を示した

③ 「伝えたい内容を英語で書く活動」の例

＜学習指導要領における言語活動の領域と内容＞

- 書くこと(ア)文字や符号を識別し，語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと
- 書くこと(ウ)自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと
- 聞くこと(イ)自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて，具体的な内容や大切な部分を聞き取ること

- ＜目 標＞ ①会話の内容を工夫するなど，意欲的に書くことの言語活動に取り組んでいる。  
 ②買い物の場面で使われる基本的な表現や語彙を理解し，用いることができる。

＜評価規準＞ (あ)～(う)については，[ ] 内の方法による評価の結果を p.10 表 3 (B) に示している

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
(言語活動への取り組み) (あ)【観察】積極的に言語活動に取り組んでいる	(正確な筆記) ・伝えたい内容を書いて正確に伝えることができる (い)【ワークシート】文法に従って正しく書くことができる	(正確な理解)	(言語についての知識) 買い物の場面で用いられる表現や語彙を理解し，正しく用いることができる
(コミュニケーションの継続) 表現できないところがあっても知っている語句や表現を用いたり，調べたりしながら書き続けている	(適切な筆記) (う)【ワークシート】語句や表現，文章形式などを選択し，書くことができる	(適切な理解)	(文化についての理解) 日本での買い物の場面との表現や習慣の違いなどを理解する

＜活動の内容・方法と手順および留意点＞

1	教科書本文を音読し，内容や重要な表現を確認する〔復習〕	全ての生徒が理解できているか確認する
2	ペアまたはグループで買い物の場面の会話を作る	会話のフォーマットと参考語彙を与える
3	完成した会話を練習して，クラスで発表する	感情をこめて表現できるよう指導する

＜自己表現の機会を与えた学習プリントの例＞

Don't forget. to + 動詞の原形 = ( )

<例> Mr. Matsuzaka visited the USA to play baseball.  
 (松坂投手は、野球を )

① 'to' と、□の中の適当な文を1つ使って、次の文を完成させましょう!

- Ratna will go to Hokkaido .....
- Arisa and Erika went to Hommine Store .....
- My mother wants to visit Korea .....
- Takuto and Hiroki come to school at 7 o'clock .....

·practice baseball ·sell food ·play the mukuri ·see Mr. Pe

② 次の質問にあなた自身について英語で答えましょう!

- Do you come to school to study? .....  
 (あなたは勉強するために...)
- What time do you get up to come to school? (学校へ来るために何時に...)  
 I get up ..... to come to school.
- Where do you often go to buy hamburgers? (ハンバーガーを買うためにどこへ...)  
 I often go to ..... to buy hamburgers.  
 McDonald's / Mos Burger / Kentucky Fried Chicken / Lotteria

「聞くこと」「話すこと」から「書くこと」の言語活動へとつなげるために，学習プリントにも自己表現する機会を積極的に取り入れた

④「クラスで発表する活動」の例

<学習指導要領における言語活動の領域と内容>

話すこと(イ)自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと  
 話すこと(エ)つなぎ言葉を用いるなどいろいろな工夫をして話が長くように話すこと  
 聞くこと(イ)自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ること

- <目標> ① 10年後の自分について大きな声で発表することができる  
 ② be going to / will の意味・用法を理解し、正しく用いることができる

<評価規準> (あ)~(う)については、[ ] 内の方法による評価の結果を p.11 表3(C)に示している

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取り組み) (あ)【観察】積極的に言語活動に取り組んでいる	(正確な発話) 伝えたい内容を話して正確に伝えることができる	(正確な理解)	(言語についての知識) (う)【ワークシート】be going to / will の意味・用法を理解し、正しく用いることができる
(コミュニケーションの継続) つなぎ言葉を用いるなど、工夫して話している	(適切な発話) (い)【発表】適切な速さや声の大きさと話することができる	(適切な理解) 話される内容をおおまかに理解することができる	(文化についての理解) 英語でのスピーチの仕方などについて理解している

<活動の内容・方法と手順および留意点>

1	10年後の自分について書く	参考語彙をワークシートにして配布する
2	完成した文章を正しい発音で練習する	感情をこめ、表情や身振りなども工夫する
3	クラスで一人ずつ発表し、友達の発表を評価する 自己評価も行う	評価の観点を「大きな声」「正しい発音」「アイコンタクト」とし、聞き取れた内容をメモする

No.25 私の未来予想図

Class No. Name

◎ 10年後のあなたはどのようになっているか、将来の自分を想像して、どんな人物になっているかできるだけたくさん書いてみよう。

<例> Today, I am going to talk about my future.  
 Ten years from now, I will be 24 years old. 一自分の年齢に合わせて変えよう!  
 ① I am going to be a teacher.  
 ② I am going to teach English at junior high school.  
 Thank you.

<便利な単語>

◎ speak English and go to many countries  
 build my house (自分の家を建てる)  
 marry a handsome boy (男前と結婚)  
 do volunteer work (ボランティアをやる)  
 play in the Italian/ Major League (イタリア/メジャーリーグでプレーする)  
 take part in the Olympic games (オリンピックに参加する)  
 ※その他、わからない表現は Ms. Okano

◎上の内容を参考にして、未来予想図を書いてみよう!

Today, I am going to talk about my future.  
 Ten years later from now, I will be \_\_\_\_\_ years old.  
 I am going to be \_\_\_\_\_  
 I am going to \_\_\_\_\_  
 Thank you.

モデル文と参考語彙を与え、すべての生徒が達成できるように工夫した

絵などもたくさん取り入れ、見た目も楽しいワークシートを工夫した

<評価シートの例>

NO.26 第一回 英語文化祭

◎○△で評価する

聞き取れた内容

No.	Name	発表者の名前	声の大きさ	発音	アイコンタクト	内容で聞きとれたこと。(パン屋さんになりたい、等)
1						
2						
13						
14						
15						
16						

大きな声 正しい発音 アイコンタクト

↑ ◎ ○ △のうち1つを書く。 ↓ 目があった回数を書く

⑤「スラッシュリーディング」→ ⑥「ペアやグループでの音読練習」の活動例

＜学習指導要領における言語活動の領域と内容＞

読むこと(ア) 文字や符号を識別し、正しく読むこと  
 読むこと(イ) 書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること  
 話すこと(ウ) 聞いたり読んだりしたことについて、問答したり意見を述べ合ったりすること

＜目標＞ ①新出文法、新出語彙の意味や用法を理解したうえで、正確に教科書本文を音読することができる  
 ②理解した内容に関して英語で問答したり、日本語で自分の考えを述べたりすることができる

＜評価規準＞

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化について の知識・理解
(言語活動への取り組み) 積極的に言語活動に取り組んでいる	(正確な音読・発話) ・正しい強勢、イントネーション、 区切りなどを用いて音読できる ・話そうとすることを正確に聞き手に伝えることができる	(正確な理解) 書かれている内容を正確に読み取ることができる	(言語についての知識) 新出語彙や新出文法について意味・用法を理解している
(コミュニケーションの継続) 理解できないところがあっても推測したり、聞き返したりするなどしてコミュニケーションを続けようとする	(適切な音読・発話) ・場面や心情に応じた音読ができる ・適切な音量で読むことができる ・聞かれた事に対して適切に応答することができる	(適切な理解) 質問や依頼などに対して適切に応じることができる	(文化についての理解) 動物保護や環境保護について考えようとする

＜活動の内容・方法と手順および留意点＞

1	スラッシュリーディングによって内容を正確に理解する	新出事項や発音の要点をおさえる
2	教師に続いてコーラスリーディングを行う	スラッシュごとのチャンク→徐々に長くする 場面や心情に応じた音読をめざす
3	ペア/グループでチャンクごとの英語⇄英語、日本語⇄英語の練習をする	正しく発音ができているか確認する
4	本文の内容に関する Q&A を行う	日本語でも自分の考えを述べさせる

＜スラッシュリーディングのワークシートの例＞

Hello, / everyone.  
 What kind of dream / do you have?  
 We all / have / different dreams.  
Eri wants to be an astronaut. / Akira wants to be a musician.  
Junko wants to travel / around the world / and see many places.  
 Today / I am going to tell / you / about my dream.

こんにちは / みなさん。  
 どんな種類の ( ) を / あなたは ( ) 夢  
 私たち ( ) は / 持っています / ( ) 夢  
 エリは宇宙飛行士に ( ) 。 / アキラはミュージシャン  
 ジュンコは旅を ( ) / ( ) を / そしてたくさん  
 今日 / 私は ( ) です / ( ) に / 私の

英語の語順のまま内容を理解することをめざしたワークシート

スラッシュで区切られた  
たまたまごとにより日本語  
→英語ができるように練習をした

実践の後半には、日本語を  
参考に英文にスラッシュ  
を入れるワークシートを  
工夫した

①下の日本語訳を参考にし、英文中の区切りをつけられる15箇所( )にスラッシュを書き入れましょう。

Master: I'm going away for two days.  
 An: Yes, master.  
 Master: See that pot? It's very important. Watch it.  
 Chin: Yes, master.  
 Master: But don't touch it. It's full of poison.  
 Kan: Poison? Poison!  
 Master: Yes. Poison. Don't look into either.  
 An, Kan, Chin: No, Master. We'll be very, very careful.  
 Master: Good. I'll see you in two days. Goodbye.



住職: わたしは出かける予定じゃ / 2日間。  
 安: かしこまりました / 住職。  
 住職: 見えるか? / あの壺が。 / あれはとても大切なものじゃ。 / 見はっておけ / それを。  
 珍: かしこまりました。 / 住職。  
 住職: しかし / 触るでないぞ / それを。 / それは〜でいっぱいじゃ。 / 毒で。  
 親: 毒ですって? 毒!  
 住職: そうじゃ。毒じゃ。 / のぞきこんでもいけないぞ。  
 安、親、珍: はい。住職。 私たちは、気をつけます。  
 住職: よろしい。 / 私は戻ってくるぞ / 2日後に。 / さらばじゃ。

【資料 2】 実践事例 2 において取り組んだ言語活動の指導案およびワークシート等の例

① 「フラッシュカードを用いた活動」の例

＜学習指導要領における言語活動の領域と内容＞

- 聞くこと(ア) 強勢, イネーション, 区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ, 正しく聞き取ること
- 話すこと(ア) 強勢, イネーション, 区切りなど基本的な英語の音声の特徴に慣れ, 正しく発音すること
- 読むこと(ア) 文字や符号を識別し, 正しく読むこと
- 書くこと(ア) 文字や符号を識別し, 語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと

- ＜目標＞ ①大きな声で積極的に発音練習に取り組む  
②新出語彙の強勢を理解し, 正しく発音することができる

＜評価規準＞

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取り組み) 積極的に発音練習に取り組んでいる	(正確な発話) 強勢に注意しながら, 新出語彙を正確に発音することができる	(正確な理解) ・語の強勢を正しく聞き分けることができる ・新出語彙の意味を理解することができる	(言語についての知識) 文字や符号を識別し, 正しく発音する知識を身につけている
(コミュニケーションの継続)	(適切な発話)	(適切な理解)	(文化についての理解)

＜活動の内容・方法と手順および留意点＞

1	フラッシュカードを見ながら単語を発音し, 教師に続いてリピートする	各単語の強勢や音節を意識させる 名詞については複数形を確認する
2	示されたカードを1枚ずつ読む(全体→個人)	正しく発音できているか確認する
3	フラッシュカードを見ながら意味を確認する	できれば, 教科書本文など文中で確認する
4	教師が発音した単語を書きとる	答えあわせを確実に その際, 意味をもう一度確認する

「聞くこと」「話すこと」から「書くこと」の言語活動につなげた

④ 「概要を聞き取る活動」のワークシートの例

Lesson 3 ワークシート Class \_\_\_\_\_ No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

♪CDをよく聞いて次の質問に答えてみよう。

英語の意味が分からない場合には, 聞こえた英語の音をメモしてみましょう。

- (1) ポールはカバンの中に何をもっていると言っていますか。( )
- (2) ポールは「フットボールがどうなんだ」と言っていましたか。( )  
I \_\_\_\_\_ football very much.
- (3) ポールと久美がキャッチボールをしているとき, ポールは何と言って久美をほめていましたか。  
You're very \_\_\_\_\_ . ( )
- (4) ポールはフットボールをいつ練習すると言っていますか。( )  
every day / every weekend / every Sunday
- (5) ポールは久美に「手に何をもっているの?」と質問しています。英語でどのように言っていますか。  
W \_\_\_\_\_ do you \_\_\_\_\_ in your hand?
- (6) ポールは ……………

生徒の実態に合わせて, 聞き取りのポイントをヒントとして与える工夫を加えた

聞き取る内容は同じでも, 問い方や答え方を変えること(英語の質問にする, 選択肢を与えるなど)によって, 生徒の実態に応じることができる  
そのような数種類のワークシートを作成しておき, 生徒に選択させることもできる

## ②「英問英答を行う活動」の例

### <学習指導要領における言語活動の領域と内容>

- 聞くこと(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること
- 話すこと(イ) 自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと
- 話すこと(エ) つなぎことばを用いるなどいろいろな工夫をして話が続くように話すこと
- 書くこと(ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意をして正しく書くこと

- ### <目標>
- ① 友だちと積極的に英語で問答する
  - ② 自分の持ち物について英語で話したり書いたりして正しく表現することができる

### <評価規準>

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取り組み) 積極的に言語活動(練習→問答→発表)に取り組んでいる	(正確な発話・筆記) ・正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて話すことができる ・文法に従って正しく書くことができる	(正確な理解) 質問の内容を正しく理解することができる	(言語についての知識) 一般動詞を含む文構造について理解している
(コミュニケーションの継続) 理解してもらおう、理解しようという態度でコミュニケーションを図っている	(適切な発話) ・聞かれたことに対して適切に応答することができる	(適切な理解) 質問に対して、適切に答えることができる	(文化についての理解)

### <活動の内容・方法と手順および留意点>

1	全ての絵カードについて英語での言い方を確認する	大きいサイズのピクチャーカードを用意しておく
2	持ち物を聞くときの言い方とそれに対する答え方を確認する(復習)	生徒の発言から Do you have ~? と What do you have? の質問と答え方を導き出す
3	活動の進め方を簡単に説明し、質問と答えを全体で口頭練習する。	全員が大きな声で正しく言えているか確認する
4	絵カードを生徒に配布し、友だちの持ち物調査を行う(結果はワークシートに記入する)	全員が活動の方法を理解したか確認する 制限時間を与える、教師も参加し、積極的に活動に参加できない生徒と対話する
5	調査結果を口頭で発表する	Mr ... and I have a dog. I don't have a cat. など
6	調査結果を英文で書く	必要であれば、例文(フォーマット)を与える

\* 友だちや先生が次のものを持っているどうか英語で聞いてみよう!

- A: Hi, (友だちの名前). Do you have a \_\_\_\_\_ ?  
 B: Yes, I do.  
 A: I see. Then, do you have a \_\_\_\_\_ ?  
 B: No, I don't.  
 A: OK. Thank you.  
 B: You're welcome.

\* 聞いた結果を表に記入しよう (○: 持っていた ×: 持っていなかった)

友だちの名前	ケーキ	犬	ノート	ボール
(例) トム	○	×	○	×

\* 「もっているもの」と「もっていないもの」を英文で書いてみよう。

---



---

あいさつ表現なども加え、自然な会話になるよう工夫したモデル文を示した個別に問答を始める前に全体でモデル会話を練習した

得た情報は、口頭でクラス全体に報告する活動を行ったあと、書く活動とした

---

研究報告 18

---

平成 19(2007)年 3 月 31 日 印刷  
平成 19(2007)年 3 月 31 日 発行  
発行所 大阪市教育センター  
552-0007 大阪市港区弁天 1-1-6  
電話 06 (6572) 0603  
発行者 四 宮 良 三

---